

人間科学部

学修ガイドブック

2017

SCHOOL of HUMAN SCIENCES

専修大学

専修大学 21 世紀ビジョン 「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、
深い人間理解と倫理観をもち、地球的視野から独創的な発想により
主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力

専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「**社会に対する報恩奉仕**」を、現代的に捉え直し、「**社会知性（Socio-Intelligence）の開発**」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

人 間 科 学 部

学修ガイドブック

2017

平成29年度

専 修 大 学

専修大学学則

第1章 大学の目的および使命

第1条 本大学は、社会現象に対する自由でとらわれな
い研究を基礎とし、旧い権威や強力に対してあくまで
批判的であることを精神とし、人間の値打を尊重する
平和的な良心と民主的な訓練を身につけた若い日本人
を創りあげることが目的としている。

学修ガイドブックとは…

学修ガイドブックは、みなさんのカリキュラムについて詳しく記載したものです。
卒業するまでカリキュラムは変わりません。このガイドブックをよく読み、紛失す
ることのないよう大切に活用してください。



人間科学部長
山上 精次

はじめに

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから4年間、みなさんは人生の行程の中でもっとも充実した時間をこの美しい自然にあふれた生田キャンパスで過ごすことになります。これまでの長い「児童・生徒」の時代から「学生」の時代を迎え、みなさんの胸中にはさまざまな期待や不安があると思います。

ところで話は変わりますが、最近、米国の一部の地域（ジョージア州アトランタなど）では、小学校を（elementary）school とは言わず academy と言ったり、あるいは小学生を student と呼ばず scholar と呼ぶようになっているそうです。scholar という語は日本語では一般には学者とか研究者とかに翻訳される語です。この現象は単に名称あるいは呼び名の変化というだけでなく、小学校などにおける教え方の変化、勉強の仕方の変化がその底流にあると考えられています。4月によく「学生」になったみなさんには、色々な意味で何か残念な動きですが、よくよく考えてみると人間科学部の教育の在り方と勉強の在り方は、これまでも皆さんを「学生」としてではなくて、もともとスカラとして扱っていたと思います。つまり先生方から何から何まで手取り足取り教わるのではなくて、みなさんが自分の力で問題を発掘しそしてそれを解明していく、先生はみなさんを手助けしながら、共に真理探究の道を進む仲間の一人というイメージです。

このガイドブックは、人間科学部の新人スカラのみなさんがどのように知識水準を高め、真理探究を進めるか、どのようにして人間としての底力を高めるかの具体的な方法について解説しています。もちろん、青年期の4年間には勉強だけでなく、大学の教室外で達成しなければならないこともたくさんあります。生涯の友を得たり、真に愛しい人生の苦楽を共有できる伴侶を得ることなど、人間として極めて重要な課題がみなさんの目の前にあります。みなさんはこの青年期課題に加えて、社会の中で人生を有意義に生き抜くための底力をつけなければなりません。みなさんが大学を卒業した後に君たちを待ち受ける社会、日本国、地球の状態は色々な意味で決して容易なものではありません。ある意味で状況はますます厳しくなっているとも言えます。だからこそ、みなさんに与えられた4年間、幸いにして学ぶ機会を得ることができたこの4年間に、どんな環境でも生き抜くために必要な底力を蓄えなければなりません。このキャンパスでスカラとして学ぶ中からそれが得られることを確信してがんばって欲しいと思います。

人間科学とは

「人間科学とは何か」は、みなさんが4年間のスカラ生活の中でみなさん自身で答えを見つける問いだと思いますが、ここではそれを考える際に参考となるようなヒントを短く申し添えておきます。

まず第一に、人間科学は人間を対象とした諸科学の単なる集合体ではありません。また第二に、それら諸科学のすき間を埋める境界的な領域を研究する科学でもありません。従来、人間を対象とした諸科学はそれぞれ固有の研究対象と研究方法をもって、ある平面上にそれぞれの領分を形成していましたが、それらを寄せ集めたり、あるいは総称して人間科学というのではありません。第二のいわゆる境界領域研究は、同一平面上でのそれらの領域に挟まれた、あるいは重複しているところを研究するというものです。人間科学は、むしろ従来の諸科学が構成していた平面とは別の平面上にあって、その位置から人を見直そうという機運から生まれたものです。

目 次

はじめに	3
第1章 卒業までに何を学ぶか	
I 大学の授業科目	11
1 専修大学の学士課程教育	11
2 全学公開科目	13
3 授業科目の種類	14
4 単位制と履修年次指定制	14
5 単位の考え方と算定基準	14
II 大学卒業の要件と科目の履修	15
1 大学卒業の要件	15
2 履修計画の立て方	16
3 履修上限単位数	16
4 科目の再履修	16
III 科目の履修登録	18
IV 試験と成績評価	19
1 試験の種類	19
2 受験上の注意, その他	20
3 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価	21
4 卒業論文	21
5 成績評価と通知	21
V 卒業	24
1 卒業見込証明書の発行	24
2 卒業発表	24
第2章 転換・導入教育課程と教養教育課程の学び方	
I 転換教育課程（専修大学入門科目）	27
II 導入教育課程（専修大学基礎科目）	28
専門入門ゼミナール	28
キャリア教育関連科目	29
情報リテラシー関連科目	30
基礎自然科学	31
外国語基礎科目・英語	32
外国語基礎科目・英語以外の外国語	34
スポーツリテラシー	36

Ⅲ 教養教育課程（教養科目）	37
人文科学基礎関連科目	37
社会科学基礎関連科目	39
自然科学系科目	40
融合領域科目	43
外国語系科目・英語	44
外国語系科目・英語以外の外国語	48
外国語系科目・海外語学研修	52
保健体育系科目	54
Ⅳ 外国人留学生の特例履修科目	56
第3章 専門教育課程の学び方	
専門科目では何を学ぶか	59
心理学科	
Ⅰ 心理学科の学生のために	60
1 心理学科の特色	60
2 1年次でどう学ぶか	60
Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法	61
1 卒業要件	61
2 科目の履修方法	62
心理学科 転換・導入教育課程, 教養教育課程科目一覧	69
心理学科（外国人留学生）転換・導入教育課程, 教養教育課程科目一覧	71
心理学科専門科目一覧	73
社会学科	
Ⅰ 社会学科の学生のために	77
1 社会学科の特色	77
2 1年次でどう学ぶか	78
Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法	78
1 卒業要件	78
2 科目の履修方法	79
社会学科 転換・導入教育課程, 教養教育課程科目一覧	91
社会学科（外国人留学生）転換・導入教育課程, 教養教育課程科目一覧	93
社会学科専門科目一覧	95
人間科学部専門科目一覧	99
第4章 教職, 司書, 司書教諭, 学芸員課程について	
Ⅰ 教職課程	103
1 教職課程とは	103

2	免許状の種類と取得所要資格	103
3	教職課程の履修について	104
II	司書・司書教諭課程	104
1	司書・司書教諭課程とは	104
2	資格取得証明書について	105
3	司書・司書教諭課程の履修について	105
III	学芸員課程	105
1	学芸員課程とは	105
2	学芸員課程の履修について	106
IV	大学院教職課程	106
V	科目等履修生	106
付 録		
I	専修大学定期試験規程	109
II	定期試験における不正行為者処分規程	113

第1章

卒業までに何を学ぶか

- I 大学の授業科目
- II 大学卒業の要件と科目の履修
- III 科目の履修登録
- IV 試験と成績評価
- V 卒 業

I 大学の授業科目

1. 専修大学の学士課程教育

専修大学に入学したみなさんが、これから4年間専修大学に在学し、各学部学科で定められている授業科目の単位を修得すると、それぞれの専門分野を付した「学士」となって卒業し、「社会への第一歩」を踏み出します。

この入学から「社会への第一歩」を繋ぐ「学び」の道のが「学士課程」と言えるでしょう。

しかしながら、中学校や高等学校の勉強と大学での「学び」は同じではありません。大学では、一人ひとりが自分で「学び」を選択し、自ら研鑽することが求められます。大学における「学び」は、受動的、画一的な「学習」ではなく、能動的、自律的な「学修」なのです。

そこで専修大学の学士課程では、まず、みなさんが大学での「学び」や生活にスムーズに適応できるよう「転換教育課程（専修大学入門科目）」を設置しています。「転換教育課程」で、みなさんは少人数の「専修大学入門ゼミナール」において、専修大学の学生としての自覚と心構えを得るでしょう。

続く「導入教育課程（専修大学基礎科目）」では、大学や社会で求められる必要不可欠な基礎的知識や技能（アカデミックスキル）を修得します。「導入教育課程（教養科目）」は、「専門教育課程（専門科目）」および「教養教育課程」に進むための、言わば「ゲート（入口）」です。

このように、専修大学の学士課程は「転換教育課程」、「導入教育課程」、「教養教育課程」および「専門教育課程」の4つの領域から成る「三層構造」となっており、教育課程全体の体系性・順次性が確保されるとともに、かつ教養教育と専門教育の有機的連携が図られています。

「教養教育課程」と「専門教育課程」も、基礎から応用へと段階的に学修できる科目配置となっています。「教養教育課程」には、人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・外国語系科目・保健体育系科目の5つの系統からなる科目群があり、基礎科目で興味を持った分野をより深く学べるようになっていきます。みなさんは、多様な専修大学の「教養科目」の中から各自の興味や関心を深化、発展させたり、専門分野を多角的に考察したりすることで、社会に通用する力を確実につけることができます。今日のかつ学際的・融合的な科目も用意されています。

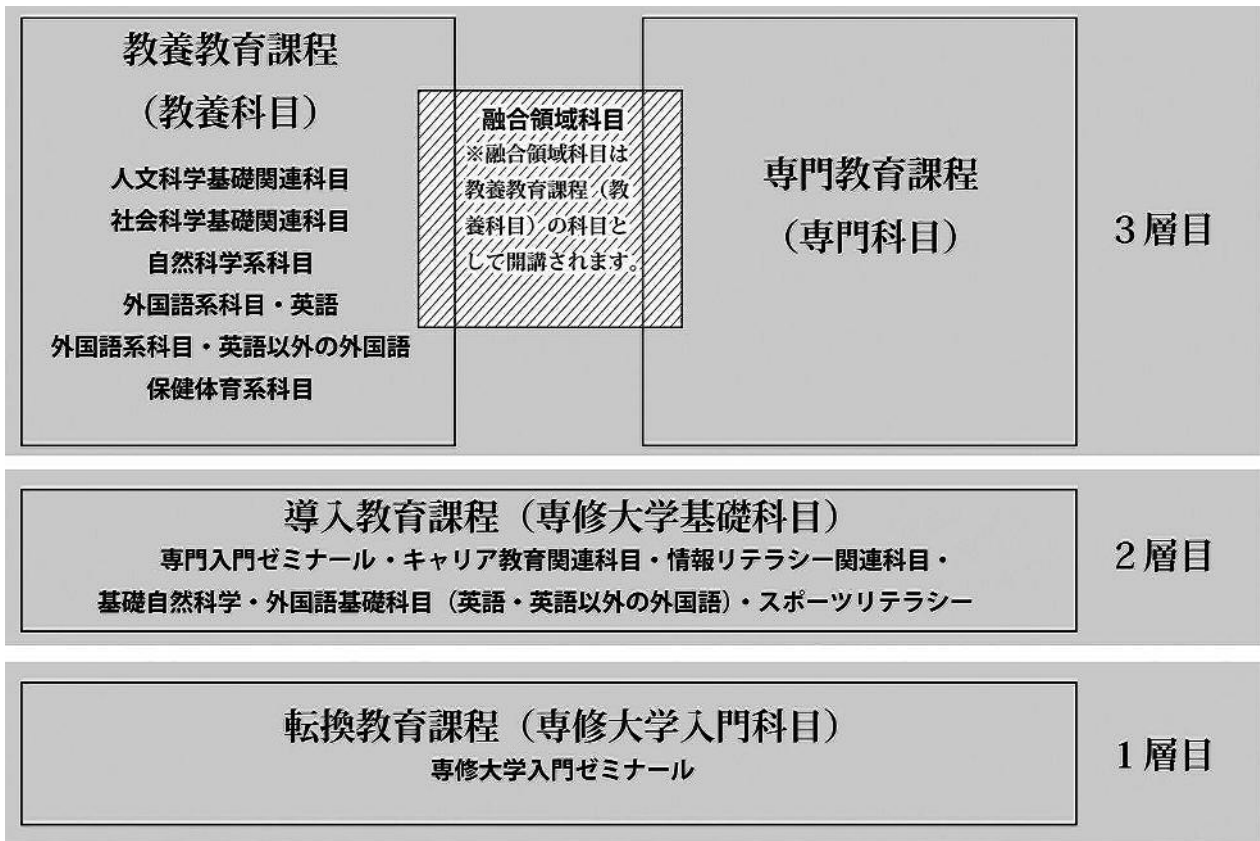
つまり、専修大学の学士課程教育は、一人ひとりの「学修」が、将来の持続的成長につながるよう、様々に工夫されているので、みなさんは、どの学部にも所属していても、社会に出てから必要な基礎的知識や技能を学び、課題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを身につけることができます。

専修大学は、みなさんが「社会への第一歩」を力強く踏み出せるように、「学び」の道筋を示し、その教育の質を保証しています。専修大学の学士課程は、みなさんを社会に誘う道標であり、みなさんを生涯にわたって勇気づけ、励ます、力強い知的基盤となるのです。

みなさんの眼前には、無限大の夢と希望が満ち溢れています。しかし内外の環境は急速劇的に変化しており、それらに適時適切な対応をしつつ、世界に飛翔するためには、国際的通用性を備え、先見性・創造性・独創性に富み、積極的に社会を支え、社会を改善する意欲・能力が肝要です。

「学び」は一瞬の夢ではありません。生涯続く険しい道のりです。高い志と気概を失うことなく、21世紀を生き抜くために、専修大学の学士課程で人生の礎を築いて下さい。

専修大学の学士課程教育の概念図



※この概念図の上下は時間軸を示すものではありません。

※学部学科によって設置される科目は異なります。

※専門教育課程については、第3章「専門教育課程の学び方」を参照して下さい。

2. 全学公開科目

(1) 全学公開科目とは

本学では、各学部・学科の教育方針に則して、多様な授業科目を開講している。このうち、「専門科目」は学部別に開講されているため、他学部で開講している専門科目に興味があっても、以前は履修することができなかった。

みなさんの多様な履修希望に応え、他学部で開講されている専門科目を卒業単位として履修できるよう、「学部間相互履修制度」が設けられた。この制度で履修できる科目が「全学公開科目」である。

(2) 公開される科目

各学部で開講する全ての専門科目が公開される訳ではない。どの科目を「全学公開科目」とするか、そして、何年次に配当するかは科目を開講している各学部で定める。

卒業するまでに、どんな科目が「全学公開科目」として履修できるかは、1年次のガイダンスおよびホームページで告知する。

(3) 講義内容

「全学公開科目」の講義内容を知りたい場合は、その科目を公開する学部のシラバスを閲覧する必要がある。各学部のシラバスはホームページで確認できる。

(4) 履修手続

「全学公開科目」は、公開している学部での履修に支障をきたさないよう、履修者数の制限を行うことがある。このため、履修を希望する学生は、その科目担当者の履修許可を得なければならない。

履修手続・選考等の詳細は、ガイダンスで告知する。

(5) 修得した単位の扱い

「全学公開科目」を履修して修得した単位は、卒業要件単位のうち自由選択修得要件単位として認定される。このため、心理学科は22単位、社会学科は20単位まで卒業要件単位に認定されることになる。

3. 授業科目の種類

大学で履修する科目は、必ず修得しなければならない科目や多くの科目のなかから自分の学びたいものを自由に選択できる科目など、次のとおり4種類に分類できる。

必修科目……卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では○印で示す）

選択必修科目……決められた科目群の中から指定された方式で選択し、卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では◎印で示す）

選択科目……適宜選択履修できる科目（授業科目一覧では△印で示す）

必修履修科目……指定された年次に必ず履修しなければならない科目

4. 単位制と履修年次指定制

1つの科目の授業を受け、試験に合格すると、その科目についての「単位」が与えられる。「単位」とは一定の質の勉強ないし学修の量を示す基準となるもので、大学で開講している各授業科目には、科目の種類や時間数によってそれぞれ単位数が定められている。大学において学修する場合、すべて単位数によって勉強の達成度が計算され、卒業の可否が決定される。これが単位制である。

また、一部の科目は指定された年次内に単位を修得しなければならない。これを履修年次指定制という。所定の年次で単位を修得することが、次の年次における配当科目を登録・履修し得る条件となっている場合もある。履修方法は学科によって幾分ちがいががあるので注意すること。

5. 単位の考え方と算定基準

大学の授業は、講義、演習、実験、実習、実技などによって行われる。そして、単位とは、授業の受講に加え、事前の準備や事後の展開という学修の過程に要する時間を加味したもので、学修の量を数字で表した学修成果の指標といえる。なお、単位数は、それぞれの科目により異なる。

大学設置基準において「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」とされており、大学での2単位の講義科目であれば、授業を含めて90時間の学修が必要とされていることになる。毎週1時限の教室での授業が1学期行われて30時間分の学修をしたものとみなしている。したがって、2単位科目の場合、残りの60時間分を教室外で学修しなければならない。漫然と授業を受けるだけでなく、事前の準備や事後の展開にも力を入れるように心がけてほしい。

みなさんは、まずこの単位制度を充分理解して、学期や学年ごとに配当されている授業科目を計画的に、かつコンスタントに修得していく努力が求められる。

Ⅱ 大学卒業の要件と科目の履修

1. 大学卒業の要件

大学を卒業するためには、(1)4年以上（休学の期間を除いて8年以内）在学すること、(2)所定の科目の単位を修得すること、の2要件が必要である。卒業要件を充たした者は、学位記が授与され、心理学科は学士（心理学）、社会学科は学士（社会学）の学位が与えられる。

卒業までに最低限修得しなければならない単位を**卒業要件単位**という。「大学設置基準」にその一般的最低基準が示されており、大学の決めた卒業要件単位を修得しなければその大学を卒業することはできない。

本学における人間科学部の卒業要件単位は、各学科とも下記のとおりであるが、内訳条件については第2章「転換・導入教育課程と教養教育課程の学び方」および第3章「専門教育課程の学び方」の各学科の条件を参照のこと。

卒業要件単位

区 分		心 理 学 科	社 会 学 科
転換・導入教育課程	専修大学入門科目	0	2
	専修大学基礎科目	9	11
教養教育課程	教 養 科 目	9	9
専 門 教 育 課 程	必 修 科 目	32	26
	選 択 必 修 科 目	32	32
	選 択 科 目	20	24
自 由 選 択 修 得 要 件 単 位		22	20
卒 業 要 件 単 位 合 計		124	124

2. 履修計画の立て方

みなさんは、それぞれの個性と志向に応じて、4年間の大学生活全体の大枠を考えたその上で、各年度の具体的な履修計画を立てなくてはならない。

もちろん大学生活全体の大枠を考えるとと言っても、入学当初から上級年次の選択科目のどれとどれを履修するかというようなことは決めておくことはできない。学修の段階が進むにしたがって何を選択すべきかという判断もできるようになるからである。しかし、各年次でどのくらいずつ単位を修得していったらよいかはあらかじめ考えておく必要がある。この際下級年次で比較的多く、上級年次で少なくなるよう計画するのが賢明である。とくに4年次には卒業論文に取り組み、就職活動をしたりしなくてはならないので、あまり卒業要件単位を残しておかないほうがよい。このように計画することによって上級年次になってから、余裕をもって広い範囲から選択科目を選び、また自主的な学修を深くすすめることができるようになる。

科目の選択に際して、転換・導入教育課程と教養教育課程については、第2章の「転換・導入教育課程と教養教育課程の学び方」をよく読み、また、専門科目については、学科によって異なるので、第3章の「専門教育課程の学び方」をよく読んで研究する必要がある。

それでは、履修計画を立てる際の注意事項を次にあげておく。

- ① 年度はじめに行われる履修ガイダンスに出席し、シラバスを活用して各自の履修計画を考える。
- ② 科目の年次配当を十分考慮し、後に悔いを残さないようにする。
(原則として配当年次以外の履修は認められていない。)
- ③ 各年次ごとに相応の単位を修得するようにする。
- ④ 必修科目、選択必修科目の単位は必ず指定された年次に修得するようにする。
- ⑤ 卒業要件単位は、必要な最低修得単位であるから実際にはこれを上回る単位数を計上して計画をたてる。

3. 履修上限単位数

人間科学部では、履修できる上限の単位数が定められており、各年次一律に48単位が上限となる。海外語学短期研修及び資格課程科目については、年間履修上限単位数には含めない。また、履修上限単位数には、再履修科目も含める。

4. 科目の再履修

配当年次が指定された科目の単位は配当された年次で必ず修得しなければならない。万一やむを得ない理由で必修科目および選択必修科目の単位を修得できなかった場合には、原則として次の年次にそれらの科目を再履修することになる。もちろん、次の年次に進級すると、その年次に配当さ

れている必修科目や選択必修科目があり，それらと再履修科目が時間割の上で重複し，両方を同時に履修できない場合がある。もし，そのような場合は，まず**再履修科目を優先して履修しなければならない**。したがって必修科目や選択必修科目の再履修は極力さけるように努力しなければならない。ただし，この原則は選択科目にはあてはまらず，もちろん，自らの判断で再履修しても良い。不明な点は，各学科のカリキュラム委員の教員もしくは教務課の窓口にお問い合わせること。

Ⅲ 科目の履修登録

科目の登録は、各自が考えた履修計画に基づいてその年度の授業科目の単位を修得する意志を表示する手段である。各自、学修ガイドブックおよび年度はじめに行う履修ガイダンスに従って、その年度に履修する科目を選択し、定められた期日までに登録しなければならない。これを本学では履修登録と呼んでいる。履修登録に際しての注意事項を次にあげておくので厳守し、誤りのないように手続きして欲しい。

- ① 所定の期日までに履修登録を行わなかった場合、その年度の授業科目の履修は認められず、単位は修得できない。
- ② 各年次の時間割の配付および履修登録手続きに関する説明は、ガイダンス時に行う。ガイダンスでは、各種登録、重要事項の指示等を行うので必ず出席すること。
- ③ スポーツ演習系の科目を受講する者は、受講人員に制限があるので、登録前に希望する科目の選択カードを受け取っておかなければならない。選択カードの交付日時、場所、方法等については、掲示またはガイダンスで知らせる。
また、その他の科目でも、初回授業時に選抜（抽選）や履修制限を行う場合もあるので、必ずガイダンスで説明を受け、履修を希望する科目の初回授業に出席すること。
- ④ 登録後の科目の変更は原則として認めないので十分検討して登録する。
- ⑤ ゼミナールおよび心理学研究法は原則として、履修する前の年の10～11月頃、テーマ、募集人員、選考方法などについてのガイダンスがあり、選考のうえ、各ゼミナールおよび心理学研究法の履修者が内定されるので掲示に注意する。
- ⑥ 同一曜日・同一時限においては、1科目しか登録できない。ただし、前期科目、後期科目のように期間の異なるものは、この限りでない。
- ⑦ 前年度までに単位を修得した科目は、指定された科目を除いて再度履修することはできない。
- ⑧ 学年・学科・クラスが指定されている場合は、それに従って科目を履修しなければならない。
- ⑨ 同じ名称をもつ科目は、指定された特定の科目を除いて2つ以上は履修できない。なお、心理学基礎実験2および心理学研究法1・2は2時限続きの科目であるから、2時限続けて履修しなくてはならない。
- ⑩ 必修科目は、指定された年次で必ず履修しなければならない。なお、当該年度に修得できなかった場合は、翌年度必ず再履修しなければならない。
- ⑪ 履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に、履修中止申請期間内に所定の申請手続きを行うことにより、当該授業科目の履修を中止することができる。（一部の科目を除く）

IV 試験と成績評価

試験は、日常の学習成果を問うものである。したがって試験には、厳正な態度で臨まなければならない。遅刻はもちろんのこと、自己の健康管理を怠り欠席することのないよう注意しなければならない。

定期試験は、定期試験規程（p.109を参照）に基づいて実施されるので、規程を熟知し、さらに次の事項についても十分理解しておかなければならない。 ※実施の時期は変更することがある。

1. 試験の種類

(1) 前期試験

前期のみの半期授業科目について7月から8月の間に実施する。

(2) 後期試験

後期のみの半期授業科目および通年の授業科目について1月から2月の間に実施する。

(3) 追試験

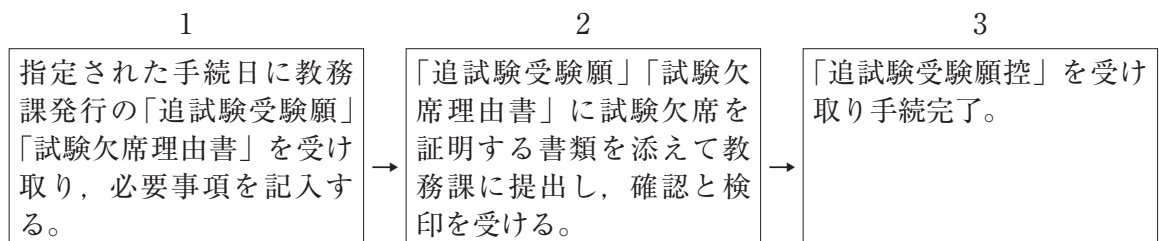
前期試験または後期試験をやむを得ない理由で受験できなかった場合、当該授業科目について前期追試験を8月、後期追試験を2月から3月の間に実施する。

なお、本学では、「やむを得ない理由」が拡大解釈されることのないよう、厳しい基準を設けている。医師の診察を要しない程度の病気や寝坊による遅刻等は、「やむを得ない理由」とは見なされないので注意すること。

① 追試験受験手続

追試験の受験希望者は、指定された期間に追試験受験願と、試験欠席理由を証明する書類を教務課人間科学部に提出し、受験許可を得なければならない。

◎追試験受験手続きの手順



② やむを得ないと認める試験欠席理由および提出しなければならない書類は、次のとおりである。

- | | |
|-------|---------------|
| ・教育実習 | 教育実習参加を証明するもの |
| ・就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |

・公式試合	公式試合参加を証明するもの
・天災その他の災害	被災を証明するもの
・二親等以内の危篤又は死亡	危篤又は死亡を証明するもの
・本人の病気又は怪我	医師の診断書
・交通機関の事故	遅延又は事故を証明するもの
・その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項	学部長の承認を得た本人記載の理由書

2. 受験上の注意, その他

(1) 受験について

受験上の注意については、定期試験規程にも定められているが、さらに次の点にも十分注意を払う必要がある。

- ① 同じ名称の授業科目がいくつも開講されている場合があるので、自分の履修した科目の授業曜日・時限および担当者を試験時間割で確認し、間違いのないようにすること。
- ② 同一科目でも、試験場が複数教室に分かれている場合が多いので十分注意すること。
- ③ 試験監督から配布された答案用紙以外の用紙を使用しないこと。
- ④ 答案用紙の再交付は行わない。
- ⑤ 試験場内での私語は、不正行為と見なされるので絶対にしないこと。
また、廊下等での私語は、受験中の学生の迷惑となるので慎むこと。

(2) 定期試験時間割

定期試験時間は、授業時間とは異なり、原則として60分である。定期試験時間割は、試験実施前に人間科学部掲示板に掲示する。ただし、資格課程科目の試験時間割は、試験実施前に教務課資格課程掲示板に掲示する。

【注意】

学生証不携帯者は、いかなる理由があっても受験できない。

ただし、当該試験開始時刻までに教務課窓口申し出た場合は、当日のみ有効の「臨時学生証」の交付（有料）を受けて受験することができる。試験開始時刻前に試験場で学生証不携帯に気づいた場合は、所定の手続をすることにより臨時学生証の交付を認めることがある。

試験当日は、不測の事態に備えて試験開始30分前には登校し、学生証の携帯と試験場を必ず確認すること。

なお、遅刻をした場合に受験が認められるのは、試験開始後20分までに試験場に到着した場合である。

3. 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価

科目によっては平常点で成績評価が行われるため、前期試験、後期試験は実施されず、したがって追試験も実施されないものがある。

平常点で評価される科目の場合、各科目の授業期間を通しての、授業への貢献度や授業での発表内容、レポート、授業の中で実施されるテスト等（注1）によって総合的に成績評価が行われる。

注1）授業の中で実施されるテストは、期末テスト、授業内テスト、中間テスト、小テスト等と呼ばれ、定期試験規程に定められた試験ではないため、追試験は実施されない。

ただし、これらのテストのうち、授業期間の最終週に実施されるものの中には、授業科目担当教員の判断によって、定期試験規程を準用して実施する場合もあり、その授業科目については、追試験が実施される（追試験を受験するためには、前述の追試験受験手続をとり、受験許可を得ることが必要になる）。

4. 卒業論文

卒業論文は、必修科目になっている。卒業論文は4年次で提出し、その審査に合格しなければならない。卒業論文は、専門的かつ自主的な研究の中核であり、指導教員の指導を受け、その指導による学習の成果として提出するものである。

(1) 論文提出

12月中旬（提出締切日はかなりの期間をおいて事前に日・時・場所などを掲示で発表するので厳守すること。）

(2) 論文の規格

学科ごとに規格・様式等が定められているので、詳細については学科の指示に従うこと。

(3) 提出時に携行すべきもの

学生証、卒業論文題目届（題目届、論文の題目及び中表紙は完全に一致していることが必要である。）

(4) 口述試験

1月中旬～1月下旬（事前に人間科学部掲示板にて発表）

欠席すると単位は与えられない。この期間はスケジュールを空けておくこと。

5. 成績評価と通知

(1) 成績評価の方法について

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、口述試験、実技試験またはレポート）によって評価されるが、科目によっては、それに学修の状況等を平常点として加味し評価する場合や、平

常点だけで評価する場合もある。

成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。また、授業科目ごとの成績に対してグレードポイント（G P）を付与し、G P A（Grade Point Average）を算出する。

(2) 成績評価の区分

評 点	評 価	G P*	内 容
100～90	S	4.0	抜群に優れた成績
89～85	A +	3.5	特に優れた成績
84～80	A	3.0	優れた成績
79～75	B +	2.5	良好な水準に達していると認められる成績
74～70	B	2.0	妥当と認められる成績
69～65	C +	1.5	一応の水準に達していると認められる成績
64～60	C	1.0	合格と認められるが最低限度の成績
59～0	F	0.0	不合格
認定	N	なし	留学等で修得した単位を本学の単位として認定。GPAに算入しない。
履修中止	W	－	所定の期日までに履修中止の手続きを行った場合。GPAに算入しない。

※ G P = グレードポイント

(3) G P A（Grade Point Average）制度について

G P A制度は、国内外の大学で一般的な成績評価方法として使用されているもので、授業科目ごとの成績評価（本学ではSからFの8段階）に対してグレードポイント（G P）を付与し、この単位当たりの平均を算出した値がG P Aである。具体的な算出方法は次のとおり。

$$(Sの修得単位数 \times 4.0) + (A+の修得単位数 \times 3.5) + (Aの修得単位数 \times 3.0) + (B+の修得単位数 \times 2.5) + (Bの修得単位数 \times 2.0) + (C+の修得単位数 \times 1.5) + (Cの修得単位数 \times 1.0) + (Fの単位数 \times 0.0)$$

総履修単位数（F評価の授業科目の単位数を含む）

【G P Aに関する各種要件】

- ・ G P Aの算出対象となる科目は、卒業要件にかかわる科目（全学公開科目など、自由選択修得要件単位となる科目を含む）とする。
- ・ 留学等で単位認定された科目（N）は、G P Aに算入されない。また、履修中止した科目についても、G P Aに算入されない。
- ・ 不合格（F）の科目を再度履修した場合、成績の合否にかかわらず、G P Aには最新の評価が反映される。
- ・ G P Aは、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで表示とする。
- ・ 一度単位を修得した科目を、次学期以降に再度履修することはできない。

(4) 履修中止について

「履修中止」とは、履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に、履修中止申請期間に所定の手続きを行うことにより、当該授業科目の履修を中止することができる制度である。履修中止申請期間は、前期（対象科目：前期および通年科目）と後期（対象科目：後期科目）にそれぞれ設定される。日程、手続方法、その他詳細については、掲示で確認すること。

なお、履修中止申請をする際には、以下の点に注意すること。

- ①履修中止した授業科目については、当該授業への出席、定期試験の受験、単位の修得はできない。
- ②履修中止した授業科目の単位は、年間の履修上限単位に含まれる。また、履修中止単位数分の新たな履修登録は認めない。
- ③履修中止した授業科目は、GPAに算入されない。
- ④履修中止により、当該年度の履修登録科目がなくなる場合は、履修中止申請が認められない。
- ⑤履修中止申請した授業科目について、履修中止申請期間後に申請を取り下げることができない。

(5) 成績通知について

学業成績の結果は点数で表し、9月（前期科目）および3月に「成績通知書」にて通知する。成績通知書は、大学のホームページを経由して閲覧することができる。

なお、就職活動等で使用することになる「単位修得学業成績証明書」には、修得した授業科目のみをSからCの評価で記載する。併せて、通算のGPAを記載する（GPAには不合格科目も算入される）。

※資格試験、留学などの結果により単位を認定する科目もある。この場合、認定される科目の評価は、点数などで表さず、すべて「認定」と記載する。

V 卒 業

1. 卒業見込証明書の発行

4年次は多くの学生にとって忙しい1年になる。卒業論文などで大学生活の総まとめをすると同時に、将来を考えて就職活動にも時間をさかなければならなくなるからである。就職活動に際し必要となる書類の1つに**卒業見込証明書**がある。これは、各自が3年次までに修得すべき最低限の単位をすでに修得し、4年次の年度末には卒業する見込みであることを証明する書類である。企業は、採用の適否を判断する資料の1つとしてしばしば卒業見込証明書の提出を要求するので、3年次までにしかるべき卒業要件単位を修得し、大学からこの証明書を交付してもらい、それを企業などに提出しなければならない。以下に表示する卒業見込証明書の発行条件を念頭におき、万全を期して履修計画を立て、勉学に精進してほしい。

卒業見込証明書の発行条件

発 行 年 次	発 行 条 件
4 年 次	3年次終了時に卒業要件単位を90単位以上修得していること。

2. 卒業発表

- (1) 卒業が決定した学生については、2月下旬に第1次卒業決定者として掲示にて発表する。
- (2) 2月下旬に行われる追試験の結果、卒業が決定した学生については、3月中旬に第2次卒業決定者として、郵送にて発表する。
- (3) 卒業の可否は、必ず本人が登校し、掲示を確認すること。電話での問い合わせには一切応じない。

第2章

転換・導入教育課程と教養教育課程の学び方

- I 転換教育課程（専修大学入門科目）
- II 導入教育課程（専修大学基礎科目）
- III 教養教育課程（教養科目）
- IV 外国人留学生の特例履修科目

I 転換教育課程（専修大学入門科目）

大学における学修では、高校までとは異なり、授業に出席して講義を聴くことや教科書や参考文献など基礎文献を読むことに加え、みなさんが、自らの問題関心や勉学の目的に沿って、自主的に勉強に取り組まなければなりません。そのためには、図書館を利用し、パソコンを駆使するなどして、勉学に必要な資料を収集すること、専攻によっては実態調査などのフィールドワークを行うこと、そして自ら学んだ内容をまとめて教員や他の学生に報告すること、その成果を論文やレポートにまとめることなど、みなさんの積極的な勉学が求められます。

「転換教育課程」は専修大学の学士課程教育の三層構造の一層目にあたります。この課程で展開される専修大学入門科目として「専修大学入門ゼミナール」が設置されています。

この科目は、みなさんが、高校生活から大学生活への転換を図り、専修大学の学生としての自覚を持ち、大学での学修に求められる基本的なスキル（技法）を身につけることが目標であり、具体的な目的として、以下の点をあげることができます。

第1に、大学で学ぶことの意義を充分理解することです。大学の学修では、みなさんが、将来的な展望も踏まえ、積極的に学修を深めることが求められます。

第2に、専修大学の学生としての自覚を持つために、専修大学の歴史を学ぶことです。みなさんが、これから4年間勉学に励む「学びの庭」である専修大学の成り立ちと歴史を支えた先人たちの努力の歩みを知ることは、専修大学で学修することの意義を理解することでもあります。

第3に、大学で学ぶための基本的な技法（「アカデミックスキル」という）を修得することです。すなわち「講義をどのように聞くか」「どのように資料を収集するか」「学修の成果をどのように相手に伝えるか」「どのように討論するか」「学修の成果をどのようにまとめるか」について学ぶこと、より具体的には「講義でのノートのとり方」「資料の収集方法」「報告の方法（レジユメの作成方法）」「討論の方法」「論文・レポートの書き方」など、大学における学修の方法を修得することです。

「専修大学入門ゼミナール」は、みなさんが、これらの目的を達成できるよう、学部・学科により人数は異なりますが、おおよそ1クラス25名前後の少人数により実施されます。

また、「専修大学入門ゼミナール」は、学修のための入門科目ということだけにとどまらず、みなさんが、新入生として専修大学という同じ「学びの庭」に集った友人や教員との交流を通じて、大いに語り、励まし合いながら、大学生活を満喫するための基礎作りの場ともなります。

なお、心理学科は単位の修得は義務づけられていませんが、必ず履修しなければならない「必修」科目です。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履修することはできません。社会学科は必修科目ですので、単位を修得できなかった場合は、次年度に再履修しなければなりません。

Ⅱ 導入教育課程（専修大学基礎科目）

「導入教育課程」は専修大学の学士課程教育の三層構造の二層目にあたり、そこに設置されている科目は「専修大学基礎科目」と称されます。一層目の「転換教育課程」で学びつつ、あるいは学んだのち、三層目の「教養教育課程」と「専門教育課程」に進むための基本的な力を養います。基礎ですから1年次に履修することになります。

「専門入門ゼミナール」は、「転換教育課程」の科目「専修大学入門ゼミナール」に引き続いて履修し、所属する学部・学科の「専門教育課程」への導入としての役割を持ちます。また、この科目によって、みなさんが「専修大学入門ゼミナール」で学んだアカデミックスキルを定着させます。

「導入教育課程」で設置されている科目を学ぶことで、みなさんは大学で学ぶだけでなく、社会で必要とされるさまざまな力を伸ばすことができます。それらの力とは、外国語を運用する力（外国語基礎科目）、情報を分析し活用する力（情報リテラシー関連科目）、複合的な視点で観察し思考する力（基礎自然科学）、自分の将来を切り開いていく力（キャリア教育関連科目）、自分の健康を維持管理する力（スポーツリテラシー）です。これらの力は、国際化・情報化・複雑化が進む社会において、みなさんが活躍するために必要な社会知性を身につけるために、役立つことでしょう。

区 分		科 目	
導入 教育 課程	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール（社会学科のみ）	
	キャリア教育関連科目	キャリア入門	
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ，情報入門Ⅱ	
	基礎自然科学	あなたと自然科学	
	外国語基礎科目	英語	Basics of English, Intermediate English
		英語以外の外国語	ドイツ語初級，フランス語初級， 中国語初級，スペイン語初級， ロシア語初級，インドネシア語初級， 韓国語初級
	スポーツリテラシー	スポーツリテラシー	

【専門入門ゼミナール】

心理学においては専門入門ゼミナールは展開されていませんが、専門科目である心理学基礎実験Ⅰにおいて心理学の実験手法やレポート作成の方法等を学びます。

社会学科では、社会学科の学生として、これから社会学を学び、研究していくための基礎的な学習スタイルを身につけたり、社会学の考え方を学ぶための科目です。少人数のゼミナール形式で、文献を読んでレジュメを作成して報告をしたり、テーマ設定のもと文献や資料を集めて発表を行うなど、社会学的研究の一連の流れについて学びます。

[キャリア教育関連科目]

キャリア教育関連科目は、「大学生活において、様々な選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動する力を身につけること」を目的としています。大学生活をどのように送るか、卒業後の進路をどのように選択するかといったことは誰も簡単に決めることはできません。これを解決するには、将来どのような働き方をしたいか、そのために大学4年間をいかに過ごすかなど、自分のキャリアについてさまざまな視点から検討し、デザインすることが必要です。

そもそも、「キャリア (career)」の語源はラテン語で、「車道」や「車輪の跡 (轍)」などを意味しています。ですから、ある人のキャリアとは、その人が歩んできた人生の軌跡ということになります。こうした語源から、キャリアは「個人の様々な立場・役割・職務の連鎖」と一般に定義されています。一方、「デザイン」は、「設計」とか「構想」を指します。したがって、キャリアをデザインするとは、「自分の立場や役割を認識し、それにふさわしい己の有り様について構想を練る」ということになります。言い換えれば、過去の人生を踏まえながら、未来の自分の生き方、働き方や学び方について深く考え、そのために現在自分は何をすべきかを認識すること、となります。

1年次にキャリアデザインに対する基本的な考え方を身につけることで、将来に対する漠然とした不安感を取り除き、自分の将来像や課題をより具体的にしていきます。そしてそれを解決・実現するために自分が身につけるべき能力を明確にし、充実した学生生活に向けた具体的な第一歩を踏み出すこともこの科目のねらいのひとつです。

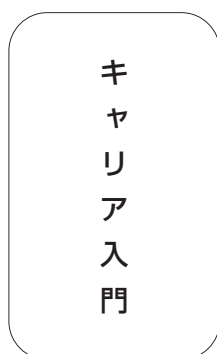
キャリア教育関連科目に設置される「キャリア入門」は、自分の性格や価値観を知ることから始め、社会の成り立ちや具体的な仕事の内容、働くことにまつわる法律などを知ること、さらには自分の目標を実現するためにはどのような能力が必要かなどについて理解することが、主な目的となります。そして、「キャリア入門」を履修すると、キャリアに関わる意識や能力がどの程度身についたか認識できるようになります。したがって、その後の学生生活において、どのように専門知識を学んでいけばいいかといった「大学内での学修」と、ボランティアやインターンシップなど実際の経験を積み重ねる「大学外での学修」を総合的に見るできるようになります。

授業では一方的に話を聴くのではなく、自分の言葉で語る機会を大切にしています。授業で学んだ知識をグループワークなどで表現し、先生や仲間、大学外からのゲストスピーカーから意見をもらうことで、自分の考えを客観的に見つけ、少しずつキャリアに関する視点を身につけていくことができます。さらにキャリアデザインセンターの各種講座は、授業で取り扱ったことについて発展的に学習できるよう、授業の進捗に合わせて展開しています。これに加え、授業期間中にキャリアカウンセリングを受けると、よりいっそう自分に適したキャリアを見つけられるでしょう。

このようにキャリア入門を受講すると、大学内外での学びを意識しながら、キャリアに対する知識を獲得し、職業選択の段階へとスムーズに移行することが可能になります。なお、キャリア入門での学修内容は、教養教育課程の融合領域科目などで開講されるキャリア関連科目に発展的に継承されていきます。あるべき自分を早い段階で意識し、己の進むべき道を主体的に選択できるよう、キャリアの考え方をしっかり修得してください。

導入教育課程
(専修大学基礎科目)
キャリア教育関連科目

教養教育課程
融合領域科目
など



- 産業・企業への理解を深め、進路(業種、職種)選択の能力修得を目指す
- 企業が抱える問題を解決することを通し、主体的にキャリア形成できる能力を身につける

【情報リテラシー関連科目】

大学での学修は、単に知識を覚えるのではなく、なぜそうなるのかを自分で考えることが必要です。そのためには、自分でデータを分析し、表現することが必要になります。そのため情報リテラシー関連科目は、PCを使って科学的・論理的な思考をするのに必要な基礎的な事項を学修します。

情報リテラシー関連科目に設置される「情報入門Ⅰ」、「情報入門Ⅱ」では、専修大学から利用できるさまざまな知的資源の検索・収集方法を学修し、表計算ソフトウェア等を使って情報を加工・分析します。また、統計データを実際にPCを使って分析します。分析結果などをプレゼンテーションやWebを通して表現する能力を身につけます。また、コンピュータ処理の特徴を理解し、どのようにコンピュータに指示を与えるのかを学修します。詳しくは、[専修大学 情報入門](#)で検索してください。テキストなどを参照できます。

なお、「情報入門Ⅰ」、「情報入門Ⅱ」は選択科目です。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履修することはできません。

情報入門Ⅰ

- 専修大学の情報システムの利用法
- 検索サイトやCiNiiなどのデータベースを使ったデータ検索
- 文書作成
- 表計算
 - データ分析
 - 計算式によるデータ分析
 - グラフによる可視化
 - 絶対参照・相対参照の概念
 - 統計資料を使った分析

情報入門Ⅱ

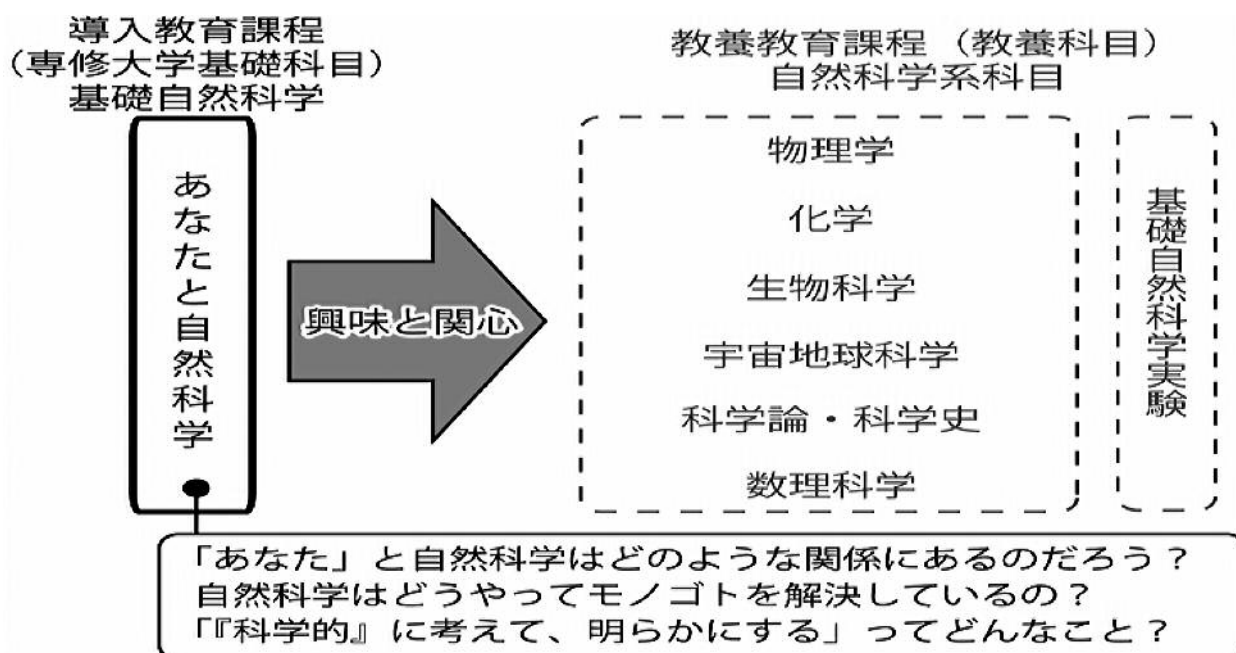
- プレゼンテーションソフトウェアによるスライド作成・表現法の学修
- 表計算ソフトウェアを使った高度な処理
- HTML文を記述することによるWeb(ホームページ)の作成
- アンケート集計(クロス集計など)
- プログラミング(どのようにコンピュータへ処理方法の指示を与えるか)
- シミュレーション

[基礎自然科学]

専修大学における自然科学系科目の講義は、みなさんが『社会の抱える諸問題に対する総合的な科学的思考力を育むことができるようになること』を目的としています。なぜ文科系の学部を専攻するみなさんが、自然科学系科目を受講する必要があるのでしょうか。

現在、私たちは、地球温暖化、エネルギー問題、安全性や倫理性に関する問題（遺伝子操作、放射能など）に直面しています。みなさんが、将来どのような職業に就いたとしても、自然科学的な考え方や知識、結論の根拠を自分で判断する力や科学的に論述する力は必要になるでしょう。「基礎自然科学」という区分で展開される科目である「あなたと自然科学」は、みなさんの自然科学的な思考力・探究力・論述力を高め、みなさんと自然科学の関係を知るための導入として設置されます。ここで学んだことは、卒業までに学んでいく教養教育課程の自然科学系科目につながっていきます。この科目で興味・関心を深め、教養教育課程で学びたい自然科学の分野を見つけるのが良いでしょう。

なお、社会学科は、単位の修得は義務づけられていませんが、必ず履修しなければならない「必修」科目です。



[外国語基礎科目・英語]

みなさんの中には、これまで大学入学を目標に英語を学んできたという人も多くいるでしょう。しかしこれからは、日本を含めた世界を意識して、英語の学修に取り組んでください。急速なグローバル化の時代、みなさんが将来どの分野に進もうとも、コミュニケーションの手段として、また情報収集、発信の手段として、英語は不可欠です。実用的な面のみならず、異文化への関心や理解を深め、人間としての視野を広げることも大変重要です。

外国語基礎科目の英語では、高等学校までで学んできた英語を土台としつつ、新たに大学生として英語や英語を取り巻く社会状況を理解し、学修することを目指します。そこでの学修は、2年次以降に開講される教養教育課程の外国語系科目へとつながっていきます。

(1) 外国語基礎科目・英語の履修方法

人間科学部では、1年次で、外国語基礎科目の英語4科目（4単位）を必修として履修することとなっています。

(A群) Basics of English (RL) 1a, 1b または Intermediate English (RL) 1a, 1b の2科目と、

(B群) Basics of English (SW) 1a, 1b または Intermediate English (SW) 1a, 1b の2科目を

履修します。RLはリーディングとリスニングが中心、SWはスピーキングとライティングが中心の科目です。BasicsとIntermediateの違いについては、次の(2)をご覧ください。

科目名にaがつく科目は前期、bがつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で半期ごとにそれぞれの成績がつきます。

(2) 外国語基礎科目・英語の特徴

外国語基礎科目の英語は習熟度別クラスで学修します。入学時の「英語科目プレイスメントテスト」によって、Basics of EnglishとIntermediate Englishのどちらを履修するかが決定します。

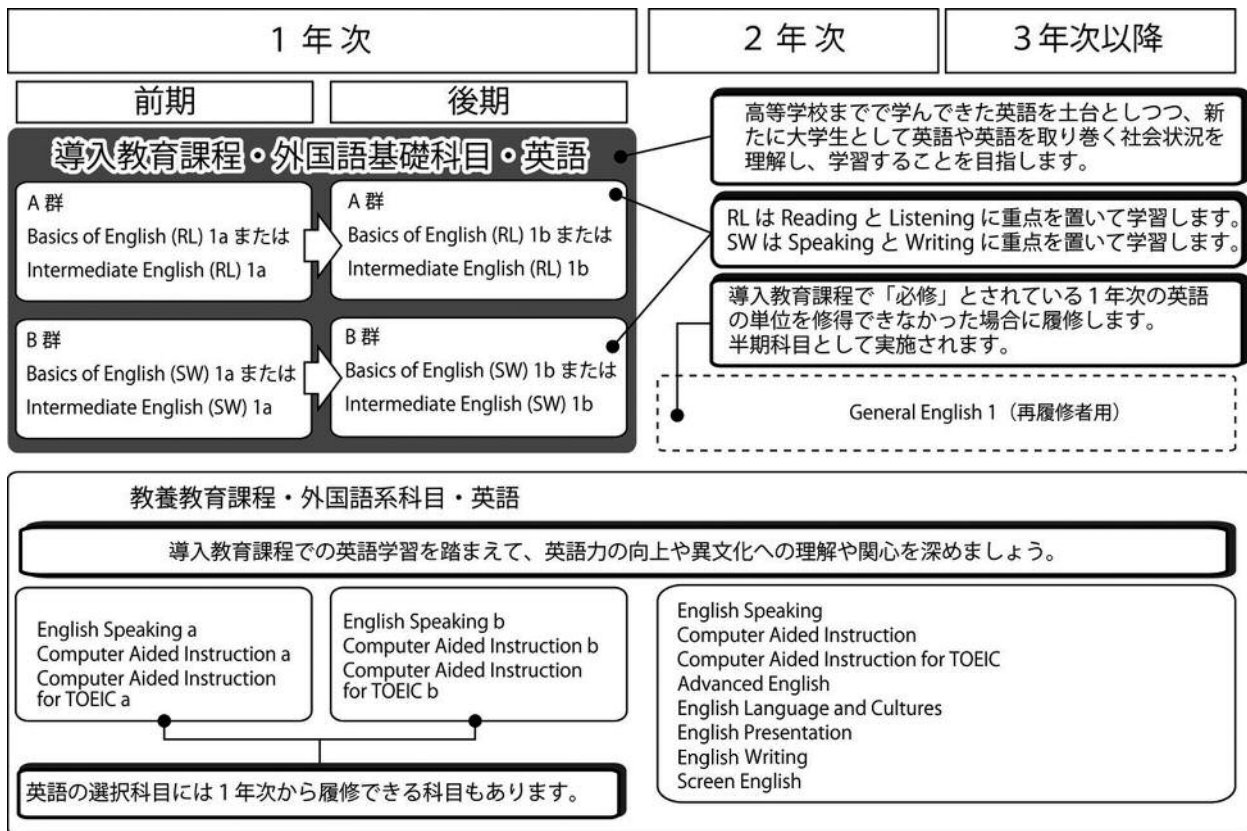
基礎的な学修が必要な場合は、Basics of English,

基礎が修得されている場合は、Intermediate English
を履修します。

Intermediate EnglishはさらにMidとHighにわかれています。特に希望すれば、英語科目プレイスメントテストによって指定されたクラスより1レベル上(Basics of English→Intermediate English (Mid), Intermediate English (Mid)→Intermediate English (High))のクラスの履修を許可される事もあります。

(3) 再履修について

導入教育課程の必修科目として開講されている1年次の英語の単位を修得できなかった場合には、2年次以降、再履修科目であるGeneral English 1を履修して不足分の単位を修得しなければなりません。General English 1は半期科目として実施されます。



1 年次から履修できる選択科目

教養教育課程に設置される外国語系科目では、みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。1 年次から選択できる英語の選択科目は次の3種類です。これらは2～4 年次でも選択できます。選択科目で修得した単位は、自由選択修得要件単位として、卒業要件単位に含まれます。

English Speaking a

English Speaking b

ネイティブスピーカーの指導のもと、会話を中心にコミュニケーション力を養います。この科目は、a、bそれぞれ4 単位まで履修することができます。

Computer Aided Instruction a

Computer Aided Instruction b

e-learning 教材を使用し、基礎的な英語力を強化します。

Computer Aided Instruction for TOEIC a

Computer Aided Instruction for TOEIC b

e-learning 教材を使用し、TOEIC®で600 点以上のレベルの英語力獲得を目指します。

これらの科目は半期1 単位です。

[外国語基礎科目・英語以外の外国語]

英語以外の外国語のキーワードは3つのC

Communication + Cultures + Connections

外国語を学ぶというのは、ことばそのものを修得すると同時に、その背景にある社会の考え方や文化（Cultures）に触れるということです。そこから、未知の人たちとのコミュニケーション（Communication）が始まります。新しいことばは、英語だけでは知ることのできない世界とつながる（Connections）、新鮮な窓口です。

外国語基礎科目に設置される英語以外の外国語では、これらの言語の基本となるコミュニケーション力・語学力を養うことを目的としています。

人間科学部では、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語が設置されています。

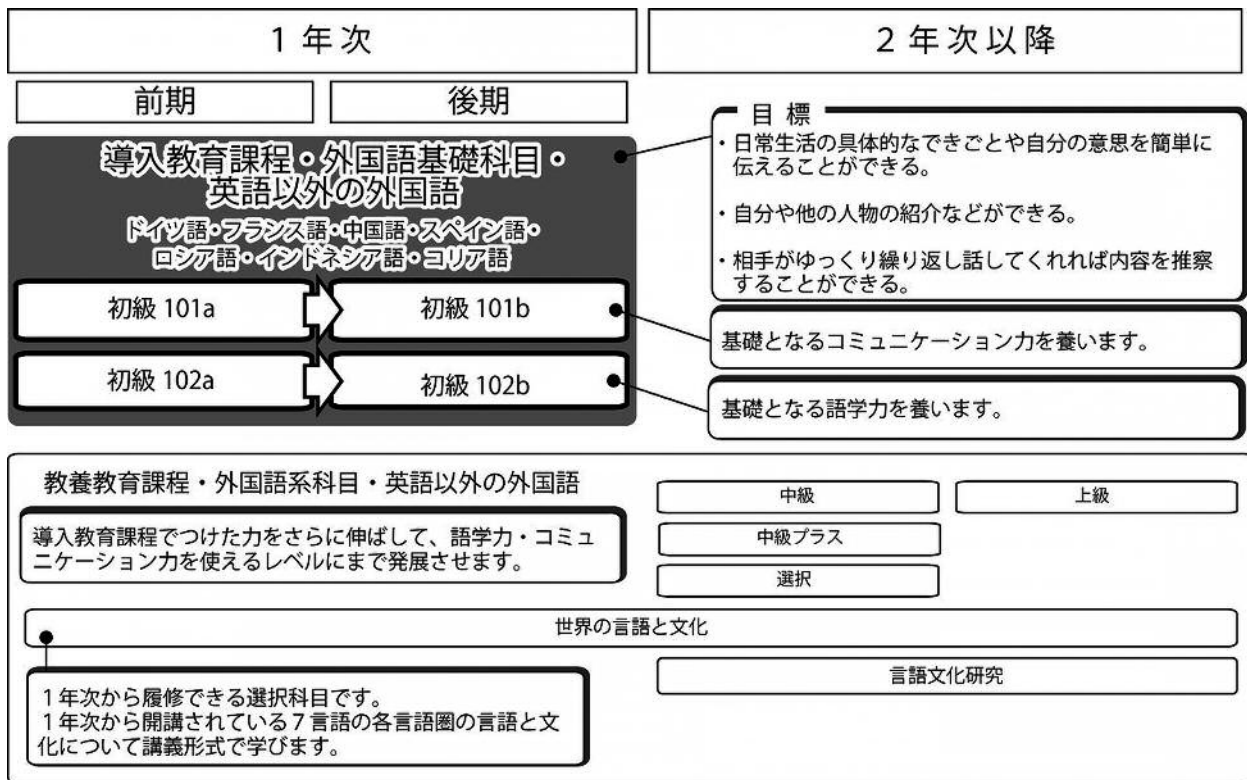
ここでの勉強は、2年次以降に開講されている教養教育課程の英語以外の外国語科目の学習へとつながっていきます。そこでは導入教育課程で学んだ言語の中級・上級レベルの学習のほか、第三外国語としてアラビア語、イタリア語を勉強することができます。また、あわせて「世界の言語と文化」、「言語文化研究」（ともに日本語による講義科目）を履修することで、さまざまな国や地域の社会とその背後にある文化を勉強できます。

(1) 外国語基礎科目・英語以外の外国語の履修方法

人間科学部では、1年次で、導入教育課程・外国語基礎科目の英語以外の外国語から、同一言語で4科目（4単位）を必修として履修することになっています。

選択した言語の初級101aと101b、初級102aと102bのそれぞれ2科目を履修します。科目名にaがつく科目は前期、bがつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で半期ごとにそれぞれの成績がつきます。

教養教育課程での英語以外の外国語の履修方法は、「教養教育課程（教養科目）」（p.37）を参照してください。



1 年次から履修できる選択科目

教養教育課程に設置される外国語系科目の中には、みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。1 年次から選択できる英語以外の外国語の選択科目は「世界の言語と文化」です。各国の言語の背景にある文化を広く学びます。

すでに英語以外の外国語を学んでいる場合

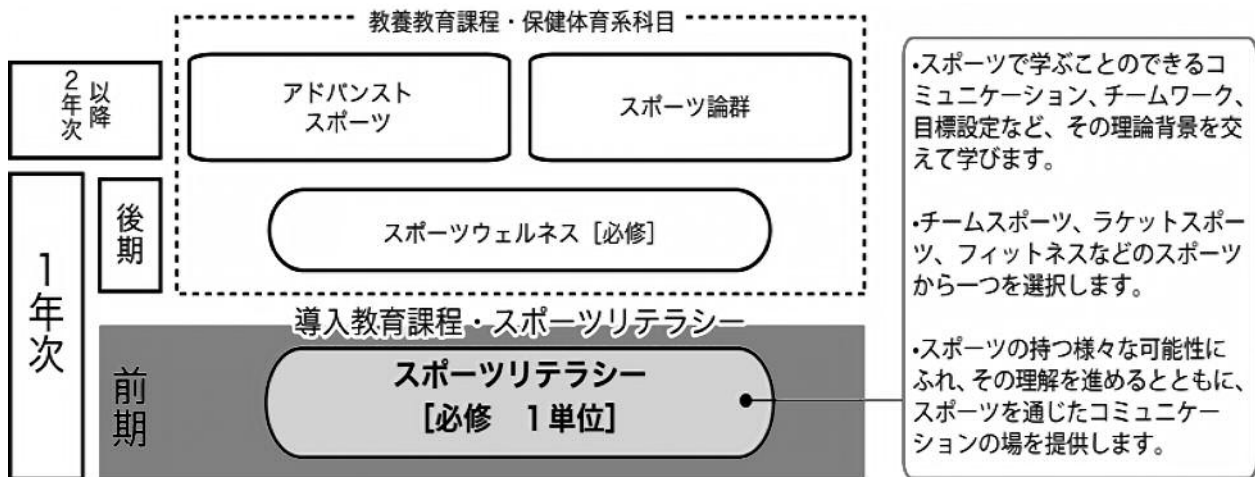
高校までに、すでに英語以外の外国語をある程度修得し、指定された資格試験で一定の基準を満たしている場合、入学年度当初に英語以外の外国語の初級 101 a・101 b および初級 102 a・102 b（4 科目 4 単位）の認定を行い、中級の科目に進むことができます。資格試験の種類と基準、申請方法については p.50 を参照し、期日までに教務課窓口で手続きを行ってください。

[スポーツリテラシー]

「スポーツリテラシー」とは、「スポーツ実践を通じて、その過程における経験をスポーツ文化に関する知を活用しながら分析・鑑賞・評価し、スポーツによるコミュニケーションを創り出す能力」を言います。スポーツリテラシーでは、スポーツが有する様々な可能性に触れて身体知を養い、スポーツを通じた学士力の養成と心身の健康の維持増進に取り組みます。また、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践し、スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養います。

「スポーツリテラシー」での取り組みは、教養教育課程の「スポーツウェルネス」や「アドバンストスポーツ」での実践的な身体活動や「スポーツ論群」で学ぶスポーツが有する多角的な価値の理解につながっていきます。

この科目は必修科目です。1年次に単位を修得できなかった場合、次年度以降、再履修しなければなりません。



スポーツリテラシー履修上の注意事項

疾病、身体虚弱および肢体不自由など、運動を制限されている場合は、教務課窓口もしくは第1回目の授業時に申し出て下さい。

個々の科目内容については、Web 講義要項を参照して下さい。

Ⅲ 教養教育課程（教養科目）

教養教育課程の位置づけと目的

「教養教育課程」は専修大学の学士課程教育の三層構造の一番上の層にあたります。そこで展開される科目は教養科目とよばれ、「専門教育課程」で展開される専門科目と併せて、一層目の「転換教育課程」、二層目の「導入教育課程」で身につけた基本的な力を用いて、さらに知識を広げ、それぞれの分野の理解をいっそう深めることを目的としています。また、専門教育課程で展開される科目を別の視点から捉えることができるようになることも大きな目的です。「教養教育課程」は専門教育課程とともに専修大学の学士課程教育の大きな柱となっています。

教養科目を学ぶ意義

現代社会には情報があふれ、ストレスも多くなっています。このような時代には、バランスの取れた人間性を涵養することがますます重要になってきます。文化や社会、身体や自然への知識と理解、またそこから得られる国際的な広い視点は、複雑な社会で生きるための基礎です。

教養科目の学び方

教養教育課程の科目のうち、人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は、1・2年次で履修します。自分の学部・学科の専門性を考慮して、履修することが望まれます。外国語系科目・自然科学系科目・保健体育系科目はWeb講義要項（シラバス）の配当学部・配当年次に従って履修します。融合領域科目は、2・3・4年次で履修します。

各区分に設定された卒業要件単位を超えて修得した場合、上限はありますが、自由選択修得要件単位として卒業単位に算入されます。外国語系科目・自然科学系科目・保健体育系科目は導入教育課程において、入門的な内容や科目の大きな目標・目的を学んでいます。それらを基礎とし、さらなる学修によって、これらの分野をより深く理解することができます。

[人文科学基礎関連科目]

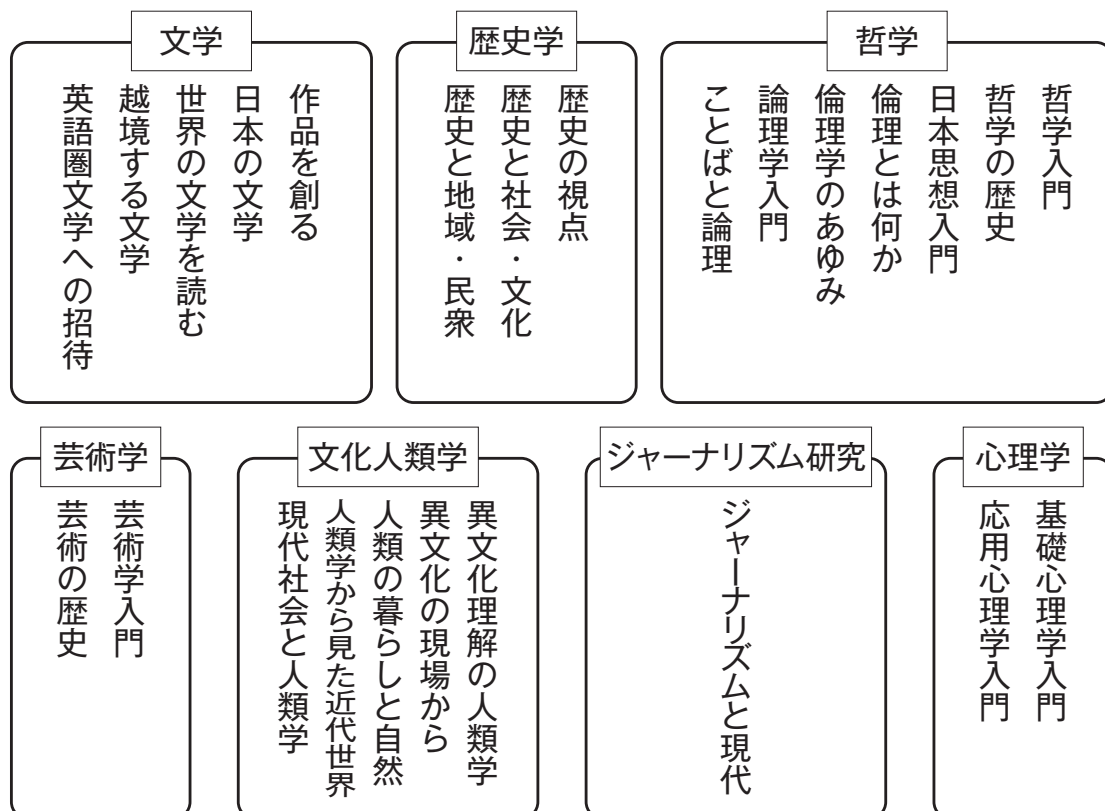
人文科学の領域にはさまざまな学問が含まれています。本学においては別表に示すように、大きい枠組みでは、文学・歴史学・哲学・心理学・人類学などに分かれています。これらの学問はさらに細かい分野に分けられているので、皆さんは多種多様な領域を持つ人文科学に驚くかもしれません。では、これらの学問分野はどうして人文科学としてひとくりにまとめられるのでしょうか。それは、これらの学問がいずれも、人間の行い、これまで人間がやってきたことにかかわっているからです。

例えば、自然科学では、人間が住んでいる世界や環境を（宇宙から素粒子まで）さまざまなサイズで研究します。そして科学が人間を研究対象とする場合でも、それは、生物としての人間であり、

物質としての人間です。あるいは、社会科学においては、ひとまず人間を全体としてみて、その活動から出発して人間の本質について問いかけます。これに対し、人文科学は、具体的で個別的でもある人間のさまざまな営みを研究対象とし、そこから人間というものがどういう生き物であるのかを理解しようとする、そのような領域なのです。人間の営みはさまざまですから、それに応じて多種多様な学問が生まれます。また、このように言ったからといって、人文科学は自然科学や社会科学などの他の分野と無関係だと言っているわけではありません。むしろ、人文科学は、人間の行為を研究しながらも、自然科学や社会科学と思わぬ仕方で結びついており、そうした結びつきを知ることは、大学で学問をすることの醍醐味の一つでもあります。

本学で展開される人文科学の科目には、大学で初めて出合う科目もたくさんあります。また、すでに学んだことのある分野でも、大学での講義が予想とはまったく違って驚くことがあるかもしれません。私たちは人文科学の領域からは複数の科目を履修してみることを勧めています。そうすることによって、人間の営みの違った側面を知り、違った観点をもつことができるはずです。ここに人文科学領域の、単なる知識にはとどまらない最大の面白さがあり、これらの科目を学ぶ目的があります。

人文科学の学問領域と人文科学基礎関連科目の設置科目



[社会科学基礎関連科目]

社会科学基礎関連科目を学ぶ意義と目的

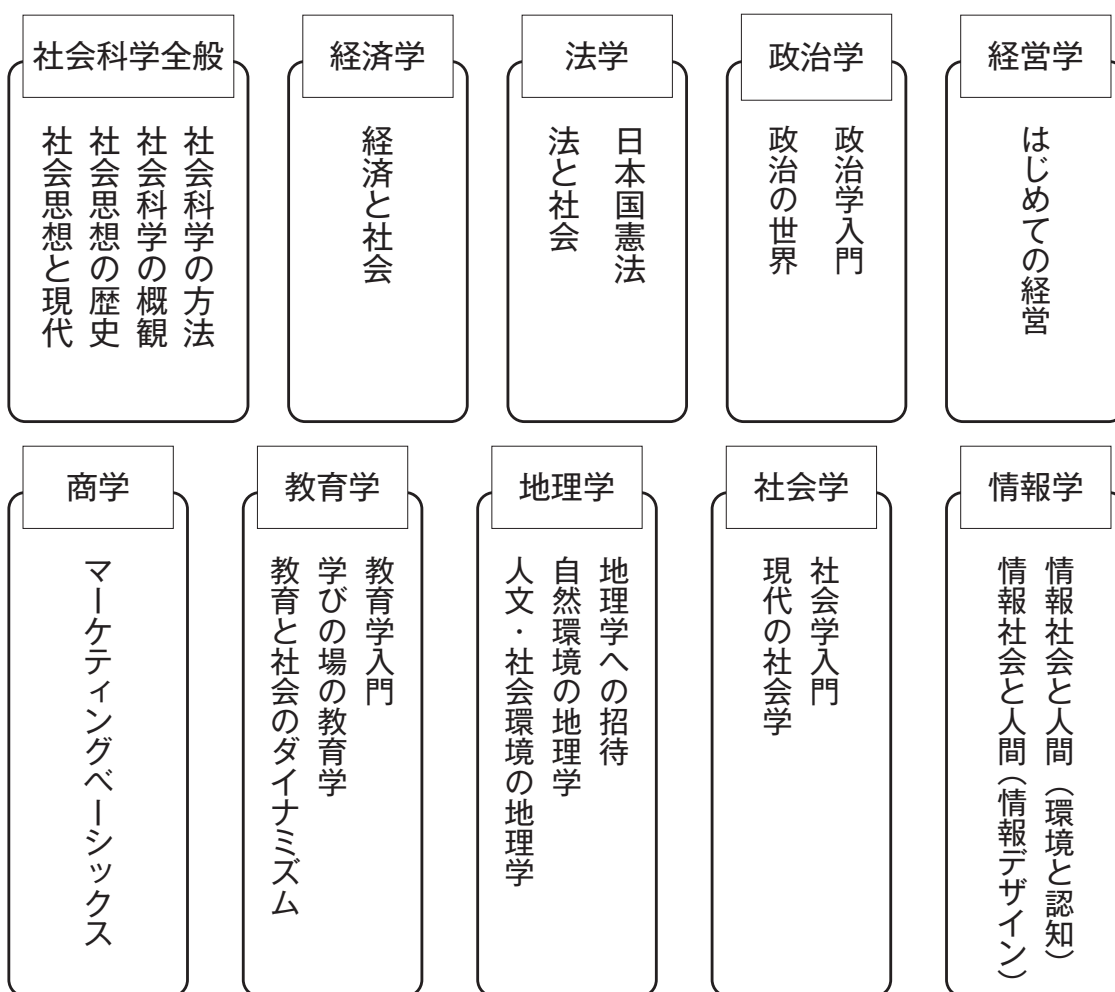
人びとは何らかの社会的な組織や集団（企業、国家、家族、地域など）の一員として生きています。何気ないふるまいや考え抜いた選択も、自分自身から一歩離れて観察すると、社会的な組織や集団、各種制度の影響をうけていることに気がきます。社会科学とは、社会を構成する組織や集団、制度の内容を知り、それぞれがどのような影響を与しあっているのかを理解することで深めることができます。

自分が生きている社会ですから、理解できていると思いついてしまったり、先入観にとらわれて誤認することもあります。それを防ぐには、「自分自身から一歩離れて観察する視点」（＝客観的な基準）が重要です。しかし、この視点は唯一無二のものが存在するわけではありません。多様な視点があり、学問領域によって異なる基準が用意されています。この点を踏まえ、社会科学基礎関連科目では、学問領域ごとに得意としている社会の観察眼を学べるよう、図にあるような科目を展開しています。

社会科学基礎関連科目の学び方

- ・社会科学基礎関連科目は、1・2年次に履修します。
- ・開講されている科目で扱う具体的な内容については、Web 講義要項（シラバス）で確認してください。
- ・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方、固定観念に縛られずに社会で生じている出来事や課題への観察眼を養うには、一見すると関連のない分野を学ぶことによっても身に付きます。このことは、学びを深める上での基本です。したがって、どの学科に所属していても、複数の科目群から履修することが望まれます。

社会科学の学問領域と社会科学基礎関連科目の設置科目



【自然科学系科目】

自然科学系科目を学ぶ意義

自然科学系科目として、物理学、化学、生物科学、宇宙地球科学、科学論・科学史、数理科学および基礎自然科学実験が設置されています。専修大学基礎科目「あなたと自然科学」でその一端に触れた科学的思考力をそれぞれの科目を通じて深化させます。

自然科学系科目の目的

①自然や物質の成り立ちと人間の存在に関する普遍的な原理の理解

現在では、宇宙の創成から人類の誕生に至るまでの科学的な理解が進んでいます。「地球に生きる私たち」という位置づけができる力を養います。

②現代社会を生き抜くための多角的な視野の形成

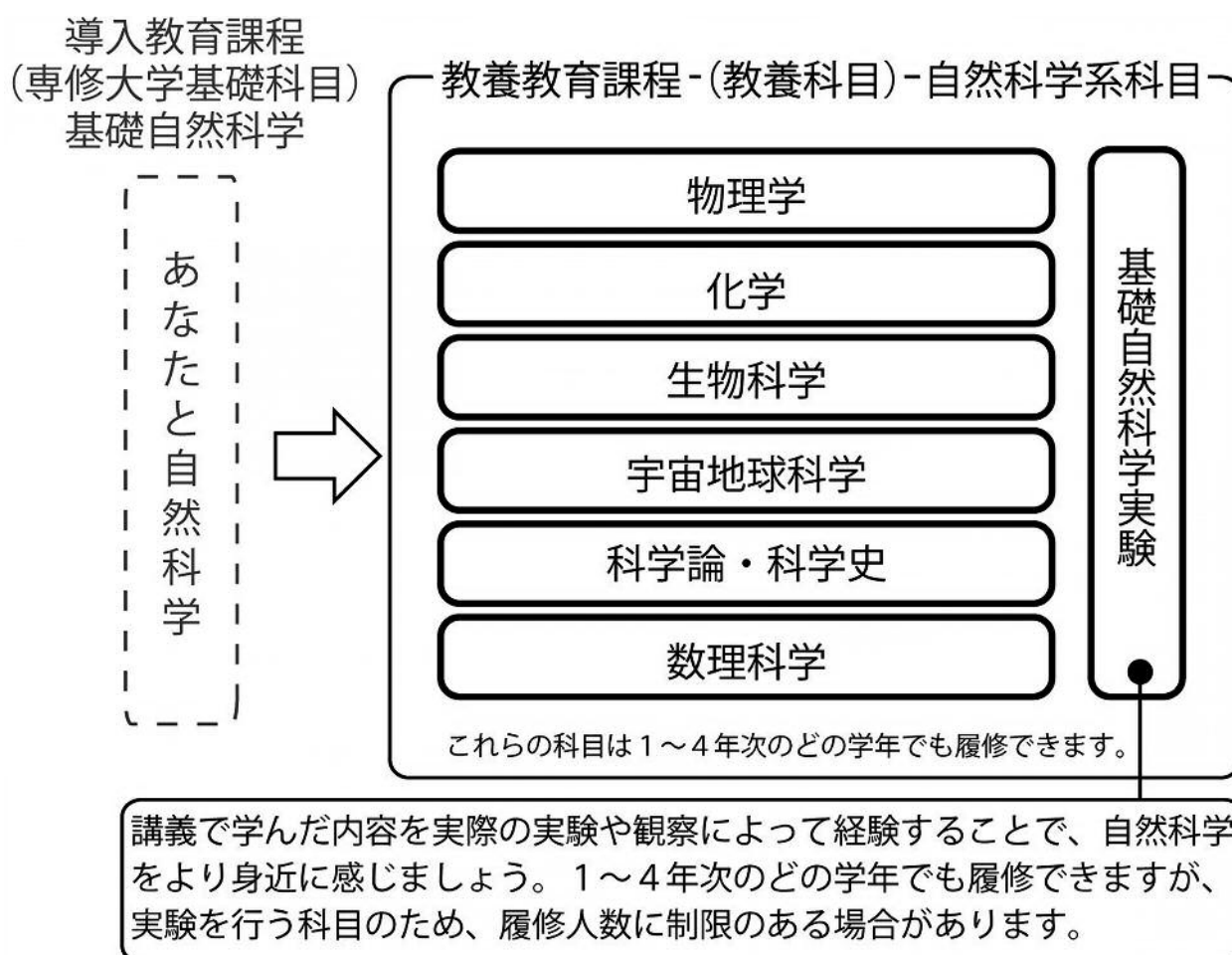
人文・社会科学系の学問と異なる、実験や観察に基づいたアプローチをする自然科学的な発想や視点を身につけ、客観的な思考力を養います。

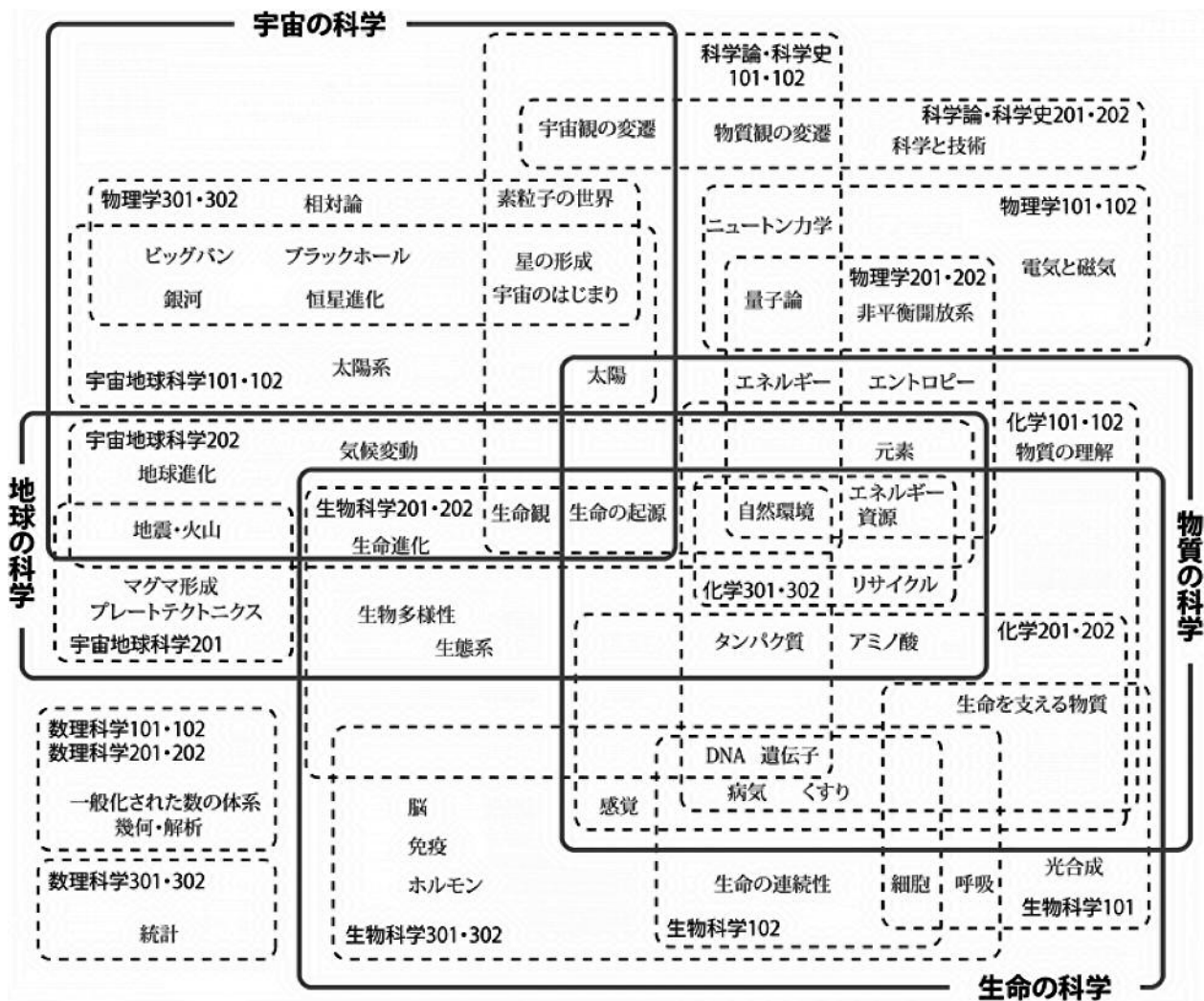
③現代社会が抱える課題を解決する能力の育成

科学技術の著しい発展は、人類に恩恵をもたらす一方で環境問題や遺伝子操作などの数々の問題も生み出してきました。これらの問題に対する適切な判断力や深く広い生命観を培います。

自然科学系科目の学び方

自然科学に関係する代表的なキーワードとそれぞれの自然科学系科目が扱うおおよその内容の関連は次の図のように示されます。「物質の科学」や「宇宙の科学」といったより広いテーマは複数の科目に関係していることが分かります。各自の学修目的に合わせて履修科目を選択して下さい。





興味のあるキーワードを中心に近隣の科目を履修するのも一つの方法です。

例) 「自然環境」がキーワード → 宇宙地球科学 201 と生物科学 201・202, および化学 301・302 を履修する。

例) 「宇宙のはじまり」がキーワード → 宇宙地球科学 101・102 と物理科学 301・302 を履修する。
分野を越えて幅広く, そして深く履修することも可能です。

例) 数理科学で「数学」を学び, この知識を生物科学 201・202 の「生態系」の学習に活かす。

注意事項

- ◎ 「〇〇101」など番号までが科目名です。「〇〇101」と「〇〇102」は別科目です。
- ◎ 「〇〇101」, 「〇〇201」, 「〇〇301」は科目のテーマ・内容を区別する番号であり, 難易度を意味するものではありません。「〇〇301」から履修しても構いません。
- ◎ いずれの科目も, 年次に関わらず自由に履修することができます。ただし, 教室定員によっては履修者を抽選で決定することがあります。
- ◎ 開講されている科目で扱う具体的な内容については, Web 講義要項 (シラバス) で確認してください。
- ◎ 科目名が同じでも, 担当する教員が異なる場合, 扱う内容が異なることもあります。

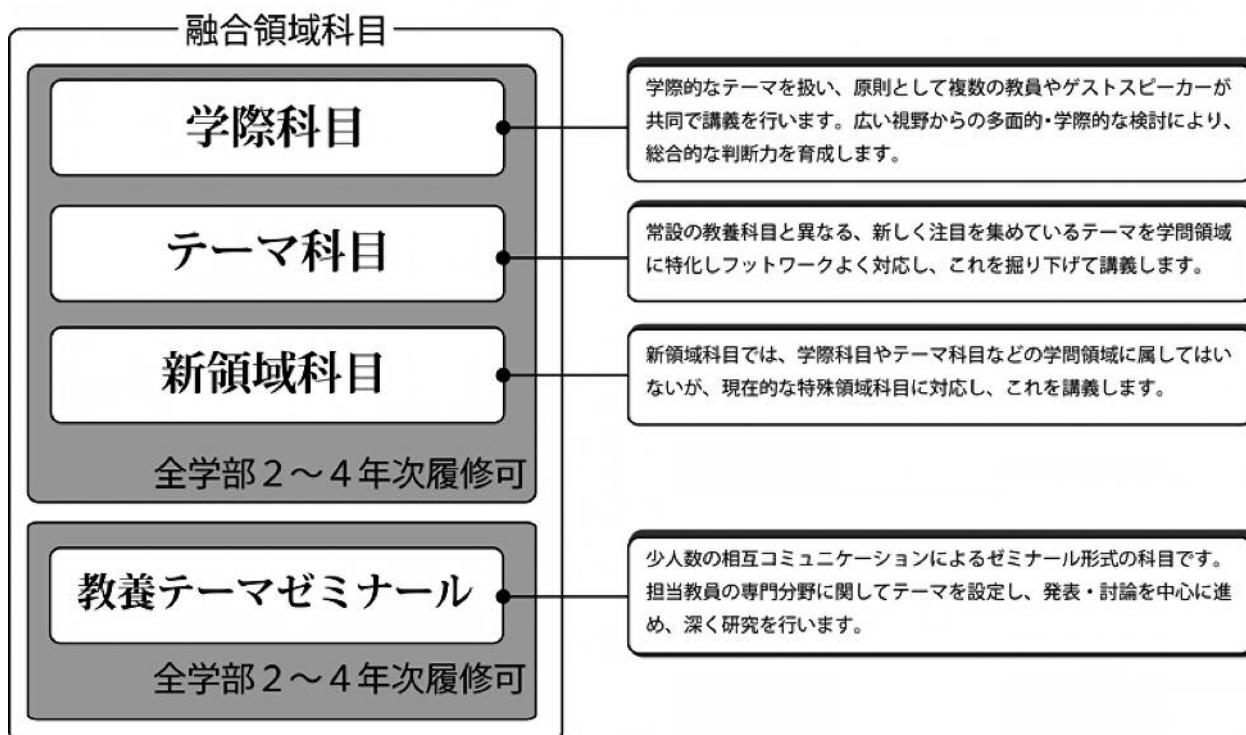
〔融合領域科目〕

(1) 融合領域科目を学ぶ意義と目的

融合領域科目は、各学部における専門科目とは異なり学際的なテーマを扱います。また一つのテーマについて多方面からのアプローチが存在することをみなさんに示しながら、どんな社会現象や自然現象にも複数の側面（多面性）があり、それらの間に複雑な関係性があることを理解させ、思考力に総合的な分析力や判断力が加わることを主な教育目的としています。

(2) 融合領域科目の学び方

- ・融合領域科目は、2・3・4年次に履修します。
- ・開講されている科目で扱う具体的な内容については、Web 講義要項（シラバス）で確認してください。



注意事項

- ◎「教養テーマゼミナール」はⅠ・Ⅱ・Ⅲに区分され、Ⅰは2年次、Ⅱは3年次、Ⅲは4年次配当です。連続して同じ「教養テーマゼミナール」を履修することもできますし、年度毎に別の「教養テーマゼミナール」を履修することもできます。
- ◎同一年度に複数の「教養テーマゼミナール」を履修することはできません。
- ◎同一年度に「教養テーマゼミナール」と専門科目のゼミナールを履修することはできません。
- ◎同一教員の「教養テーマゼミナール」を2年間以上履修する場合、「教養テーマゼミナール論文」を作成することが可能です。
- ◎「教養テーマゼミナール」は、毎年11月頃、次年度の履修者の募集を行います。募集要項は教務課で配布します。

[外国語系科目・英語]

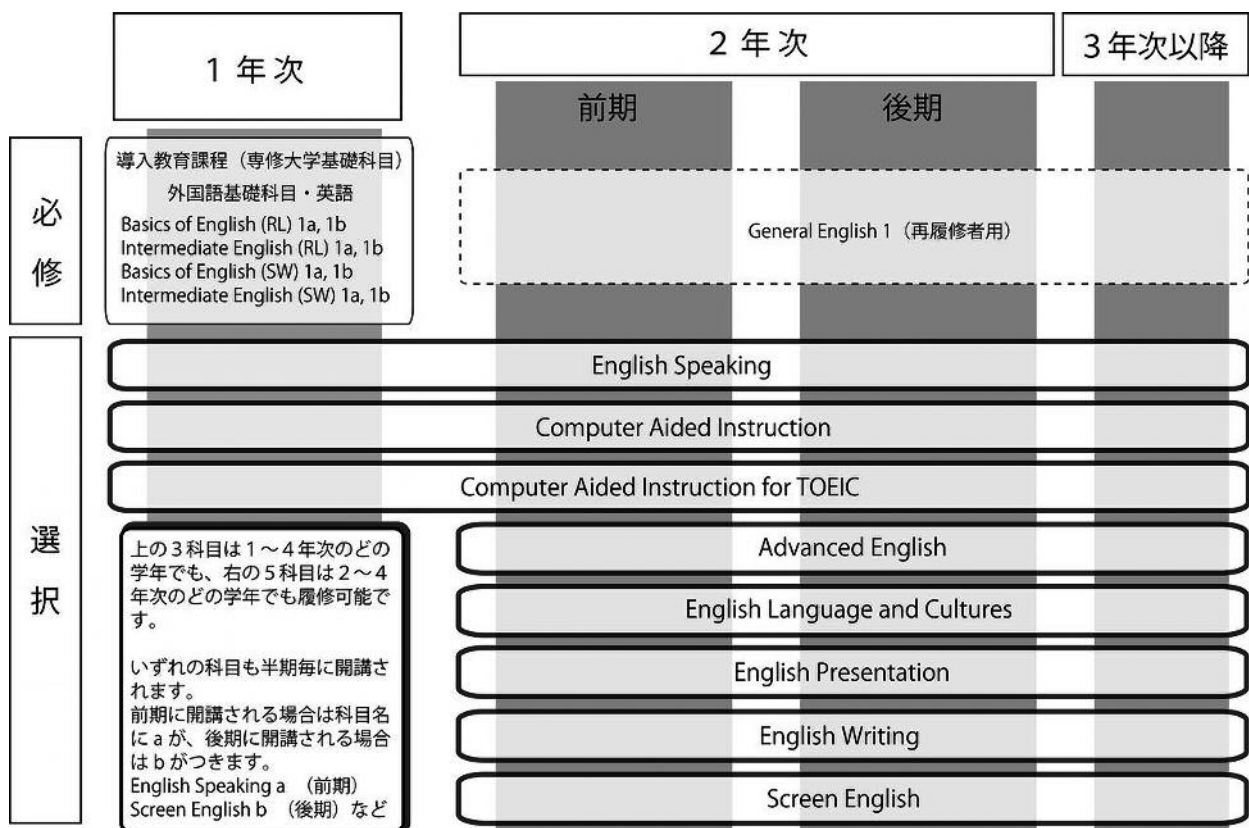
外国語系科目・英語を学ぶ意義

外国語系科目の英語では、コミュニケーションの手段として、また情報収集、発信の手段として不可欠な英語力をさらに伸ばしていくことを目指しています。グローバル化時代の多様なニーズにこたえられるよう、教養教育課程の英語には様々な科目が用意されています。導入教育課程での英語学修を踏まえて、幅広く用意された選択科目を積極的に履修することで英語力の向上とともに、異文化への関心や理解を深め、人間としての視野を広げていってください。

外国語系科目・英語の学び方

(1) 履修方法

人間科学部では、2年次以降、教養教育課程の外国語系科目の英語は選択科目として履修していきます。様々な選択科目が設置されているので、それぞれの関心や必要に応じた履修計画を立ててください。選択科目で修得した単位は、自由選択修得要件単位として、卒業要件単位になります。



1 年次から履修できる選択科目

1 年次から選択できる選択科目は 2～4 年次でも選択できます。

English Speaking a

English Speaking b

ネイティブスピーカーの指導のもと、会話を中心にコミュニケーション力を養います。この科目は、a, b それぞれ 4 単位まで履修することができます。

Computer Aided Instruction a

Computer Aided Instruction b

e-learning 教材を使用し、基礎的な英語力を強化します。

Computer Aided Instruction for TOEIC a

Computer Aided Instruction for TOEIC b

e-learning 教材を使用し、TOEIC® で 600 点以上のレベルの英語力獲得を目指します。

これらの科目は半期 1 単位です。

2 年次から履修できる選択科目

2～4 年次は、1 年次から選択できる上記の 3 種類の科目に加えて、さらに 5 種類の選択科目を履修することができます。

Advanced English a

Advanced English b

発展的な内容を学習し、英検、TOEFL®, TOEIC® 等の資格試験に対応できる英語力を目指します。この科目は、a, b それぞれ 4 単位まで履修することができます。

English Language and Cultures a

English Language and Cultures b

英語圏の文化、言語、コミュニケーションのあり方を、様々な題材を使って掘り下げていきます。この科目は、a, b それぞれ 4 単位まで履修することができます。

English Presentation a

English Presentation b

プレゼンテーションの技法を身につけ、聞き手にわかりやすく説明する能力を養います。

English Writing a

English Writing b

正しい文章を書き、正確に情報を伝達する能力を養います。

Screen English a

Screen English b

映画を主要な教材として、生きた口語表現と背景にある文化を学びます。

これらの科目は半期 2 単位です。

(2) 資格試験による単位認定 (英語)

英検, TOEFL®, TOEIC® において, 一定の基準を満たしている学生には一定水準以上の英語力を有するものとみなし, 下記の表のとおり単位を認定します。

	検定試験の種類	認定基準	認定単位数	認定科目群		認定科目名 (単位数)
上位基準	英検 TOEFL iBT®* TOEIC®	準1級 83点以上 730点以上	4	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
					A群	Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
						Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目	Advanced English a (2)	
					Advanced English b (2)	
					English Language and Cultures a (2)	
					English Language and Cultures b (2)	
下位基準	英検 TOEFL iBT®* TOEIC®	— 61点以上 600点以上	2	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
					A群	Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
						Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目	Advanced English a (2)	
					Advanced English b (2)	
					English Language and Cultures a (2)	
					English Language and Cultures b (2)	

* TOEFL iBT® = TOEFL Internet-Based Test

注意事項

単位認定の取り扱いについて

- ◎認定単位数の上限は4単位です。下位基準による2単位の認定を受けたものが、その後に上位基準を満たした場合、翌年度以降に追加認定を申請できますが、その際の認定単位数は、上限単位数から既認定単位数を差し引いた2単位となります。
- ◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。
- ◎TOEFL ITP[®], TOEIC[®]-IP は認定対象には含まれません。
- ◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。
- ◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。
- ◎認定科目（群）は原則として、未修得の必修の英語科目とし、すべての必修科目の既修得者には Advanced English a, b または English Language and Cultures a, b を認定します。

申請手続き

- 1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出し、「単位認定申請書類受領書」の交付を受けます。
- 2) 申請期間は、当該年度の4月20日（休日の場合は前日）までとします。
- 3) 提出書類は①単位認定申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。入学試験の出願時に原本を提出した場合は、窓口で申し出てください。
- 4) 合格資格の有効期限は申請日からさかのぼり、2年以内とします。

[外国語系科目・英語以外の外国語]

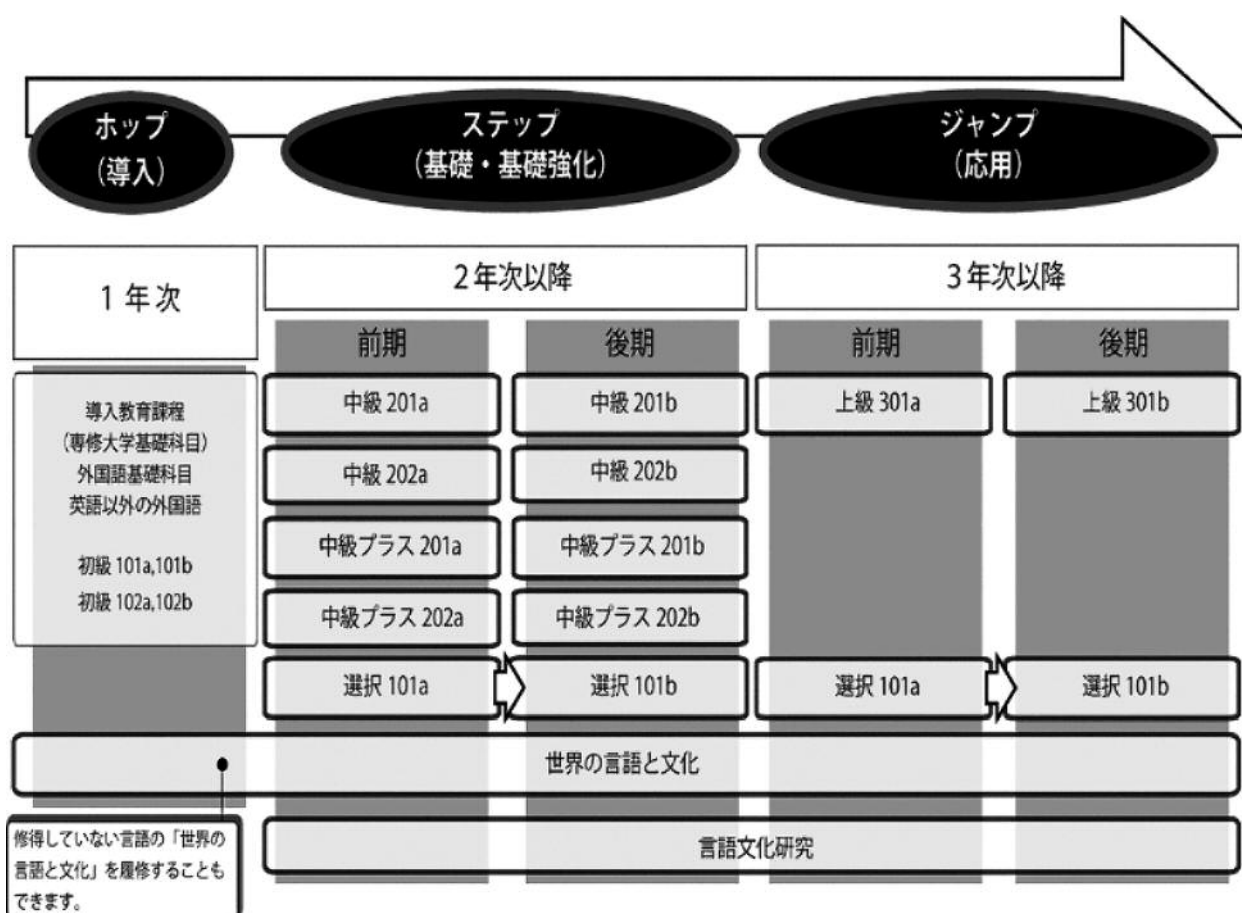
外国語系科目・英語以外の外国語を学ぶことの意義

導入教育課程・外国語基礎科目の英語以外の外国語で学んだコミュニケーション力・語学力をさらに高めるのが、教養教育課程での学修の目的です。

導入教育課程で学んだ言語の中級・上級レベルに進んで、いっそう力をつけるとともに、第三の外国語としてアラビア語、イタリア語も勉強することができます。また、ともに日本語による講義科目として行われる「世界の言語と文化」、「言語文化研究」を履修することで、さまざまな国や地域の社会とその背後にある文化を勉強してください。

外国語系科目・英語以外の外国語の履修方法

人間科学部では、2年次教養教育課程・外国語系科目は選択必修の外国語科目としては設定されていませんが、ぜひ、中級以上に進んで、積極的に語学の修得、コミュニケーション力の上達を図るとともに、さまざまな世界とその文化に触れてください。



教養教育課程・外国語系科目・英語以外の外国語で展開される科目の概要

中級 201 a, 201 b :

初級で学んだことの復習 + さらに発展した語学力・コミュニケーション力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目（2単位）まで履修することができます。

中級 202 a, 202 b :

初級で学んだことの復習 + さらにテーマ別に語学力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目（2単位）まで履修することができます。

中級プラス 201 a, 201 b・中級プラス 202 a, 202 b :

通常の中級科目に加えて、さらに学修したい人たちのためのプラス科目です。中級科目との同時履修を奨めます。ここではより実践的な読解力を磨いたり、中・長期で留学したりする際に使えるようなコミュニケーション力をつけたりします。年度を越えてそれぞれ2科目（4単位）まで履修することができます。

上級 301 a, 301 b :

個別のテーマで、中級以上のさらに進んだレベルの語学力を養います。同一年度にそれぞれ2科目（4単位）まで、年度を越えてさらに2科目（4単位）、合計4科目（8単位）履修することができます。

選択 101 a, 101 b :

第三の外国語として、入門的な語学力・コミュニケーション力を養います。

世界の言語と文化 :

各国の言語と、その背景にある文化を広く学びます。日本語による講義科目です。

言語文化研究 :

世界各地のさまざまな文化や社会およびその間の関係を深く学びます。日本語による講義科目です。

注意事項

- ◎矢印で結ばれた科目（選択 101 a ⇨ 選択 101 b）は、同一曜日・時限、同一担当の科目をセットで履修してください。
- ◎外国語基礎科目の英語以外の外国語初級4科目（4単位）を修得した場合は、同じ言語の選択 101 a・101 bを履修することはできません。同様に、同じ言語の初級4科目（4単位）と選択 101 a・101 bを同時に履修することはできません。
- ◎自由選択修得要件単位として履修した科目の単位を修得できなかった場合には、再度履修することができます。
- ◎中級以上の科目については、開講されない外国語もあります。
- ◎教養教育課程の英語以外の外国語で修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されません。

役立ちガイド：「CALL自習室」と「語学相談」の紹介

生田・神田キャンパス1号館地下にはCALL自習室とCALLライブラリーがあり、各種語学の視聴覚教材をはじめ、検試験対策教材や雑誌等が視聴、閲覧できます。また、CALL自習スペースは生田10号館1階情報コアゾーンにも設けられていて、DVDを中心とした教材が利用できます。語学相談も受け付けているので、積極的に利用しましょう。

資格試験による単位認定（英語以外の外国語）

すでに英語以外の外国語をある程度修得し、下表の資格試験の基準を満たしている学生は、初級101 a・101 bおよび初級102 a・102 bの単位認定の申請を行ってください。

検定試験の種類	認定基準	認定 単位数	認定科目（単位数）
ドイツ技能検定試験	4級	4	ドイツ語初級101 a (1)
Goethe-Institut ドイツ語検定試験	A 2	4	ドイツ語初級101 b (1)
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	A 2	4	ドイツ語初級102 a (1)
			ドイツ語初級102 b (1)
実用フランス語技能検定試験	4級	4	フランス語初級101 a (1)
			フランス語初級101 b (1)
DELF-DALF フランス語資格試験	A 2	4	フランス語初級102 a (1)
			フランス語初級102 b (1)
中国語検定試験	4級	4	中国語初級101 a (1)
			中国語初級101 b (1)
HSK漢語水平考試	HSK 4級	4	中国語初級102 a (1)
			中国語初級102 b (1)
スペイン語技能検定	4級	4	スペイン語初級101 a (1)
			スペイン語初級101 b (1)
DELEスペイン語検定試験	A 2	4	スペイン語初級102 a (1)
			スペイン語初級102 b (1)
ロシア語能力検定試験	3級	4	ロシア語初級101 a (1)
			ロシア語初級101 b (1)
			ロシア語初級102 a (1)
			ロシア語初級102 b (1)
インドネシア語技能検定試験	D級	4	インドネシア語初級101 a (1)
			インドネシア語初級101 b (1)
			インドネシア語初級102 a (1)
			インドネシア語初級102 b (1)
ハングル能力検定試験	5級	4	コリア語初級101 a (1)
			コリア語初級101 b (1)
韓国語能力試験	TOPIK I (1級)	4	コリア語初級102 a (1)
			コリア語初級102 b (1)

注意事項

単位認定の取り扱いについて

- ◎同一言語の4科目4単位をセットで認定します。
- ◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。
- ◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。
- ◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。
- ◎認定された場合は、所定の手続きを経ることで、1年次に同一言語中級科目の履修が認められます。
- ◎認定された場合は、初級101 a・101 bおよび初級102 a・102 bを履修することはできません。別の外国語を学修する場合、2年次以降に選択101 a・101 bを履修してください。

申請手続き

- 1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出し、「資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書類受領書」の交付を受けます。
- 2) 申請期間は、入学年度の4月20日（休日の場合は前日）までとします。
- 3) 提出書類は①資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。

[外国語系科目・海外語学研修]

海外語学研修および交換留学

本学の国際交流センターでは、海外の大学等と協定を結び様々な留学プログラムを設け、留学を希望する学生のサポートを行っています。留学は実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に、異文化圏での生活を肌で体験することによって、机上の学修では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。各プログラムの詳細については、国際交流事務課まで問い合わせてください。

海外語学短期研修

「夏期・春期留学プログラム」は、夏期・春期休暇を利用して海外の協定校等で約1ヶ月にわたって集中的な語学研修を行うものです。留学プログラム開設コース及び内容については平成28年11月現在のものです。

海外語学短期研修1

2単位（1～3年次担当）

夏期留学プログラム

開設コース：

社会知性開発（実用英語とイギリス文化）

ドイツ語

※社会知性開発コース（サービ斯拉ーニングとアメリカ文化）は単位認定対象外となります。

研修期間は約3週間で、1日4～5時間程度の語学研修と課外活動を行います。全コースとも初級レベルで、実践的な会話を学修し、ホームステイやフィールドトリップなどをおして現地の文化・歴史・生活習慣を学べます。

海外語学短期研修2

2単位（1～3年次担当）

春期留学プログラム

開設コース：

英語

社会知性開発（正規授業聴講・アメリカ文化とサービ斯拉ーニング、オーストラリア文化と自然）

フランス語

中国語

スペイン語

韓国語

研修期間は3～6週間で、1日4時間程度の語学研修と課外活動を行います。社会知性開発・英語コースの応募にはTOEFL[®]スコアが必要です。また、コースによっては現地の正規授業の聴講、文化施設見学やフィールドトリップ等、様々なプログラムが展開されています。

注意事項

- ◎詳細は年度により異なる可能性があります。その年度のパンフレットをよく読むようにしてください。
- ◎単位は希望者のみに与えられますので、希望者は研修参加が決定した後で定められた期日までに科目履修登録を行ってください。
- ◎評価は各プログラムの習熟度により本学の基準で行い、「認定」として単位を授与します。
- ◎それぞれの言語ごと各1回単位を自由選択修得要件単位として修得することができます。ただし、4年次生の参加者及び同一留学プログラム同一言語コース2度目の参加者については対象となりません。
- ◎当該科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

海外語学中期研修

「中期留学プログラム」は、本学協定校あるいは研修校に前期または後期の約4～5ヶ月間留学し、外国人留学生を対象に開講されている集中語学コースに参加するプログラムです。留学プログラム開設コース及び内容については平成28年11月現在のものです。

海外語学中期研修1～8 各2単位（2～4年次担当）

中期留学プログラム

開設コース：

英語

- 前期：カルガリー大学（カナダ）
オレゴン大学（アメリカ）
ウーロンゴン大学（オーストラリア）
ワイカト大学（ニュージーランド）
- 後期：ネブラスカ大学リンカーン校（アメリカ）

社会知性開発

- 後期：ワイカト大学+インターンシップ

ドイツ語

- 前期：ゲーテ・インスティトゥート ブレーメン校（ドイツ）

フランス語

- 後期：リュミエール・リヨン第2大学 CIEF（フランス）

中国語

- 後期：上海大学（中国）

スペイン語

- 後期：イベロアメリカーナ大学（メキシコ）

コリア語

- 後期：檀国大学（韓国）

実践的なコミュニケーション能力の習得に加え、大学の正規授業を受けるために必要なアカデミックスキル（プレゼンテーション、ノート・テイキング、リサーチ、論文の書き方等）や、異文化について学ぶことができます。

注意事項

- ◎詳細は年度により異なる可能性があります。その年度の募集要項及びガイドブックをよく読むようにしてください。
- ◎中期留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。
- ◎単位は希望者のみに与えられますので、希望者は中期留学プログラムへの参加決定後、所定の期間に教務課で面接の上、中期留学プログラムにおいて修得を希望する科目の履修登録を行ってください。
- ◎学習成果の評価は、当該科目担当教員が「事前授業」、「事後授業」、「留学先の成績表」等に基づいて行い、「認定」として単位を授与します。
- ◎単位は自由選択修得要件単位として、英語では海外語学中期研修1～8（英語）（各2単位）、ドイツ語では海外語学中期研修1～8（ドイツ語）（各2単位）、フランス語では海外語学中期研修1～8（フランス語）（各2単位）、中国語では海外語学中期研修1～8（中国語）（各2単位）、スペイン語では海外語学中期研修1～8（スペイン語）（2単位）、韓国語では海外語学中期研修1～8（韓国語）（各2単位）で、それぞれ最高16単位まで認定されます。
- ◎当該科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

【保健体育系科目】

「スポーツウェルネス」を学ぶ

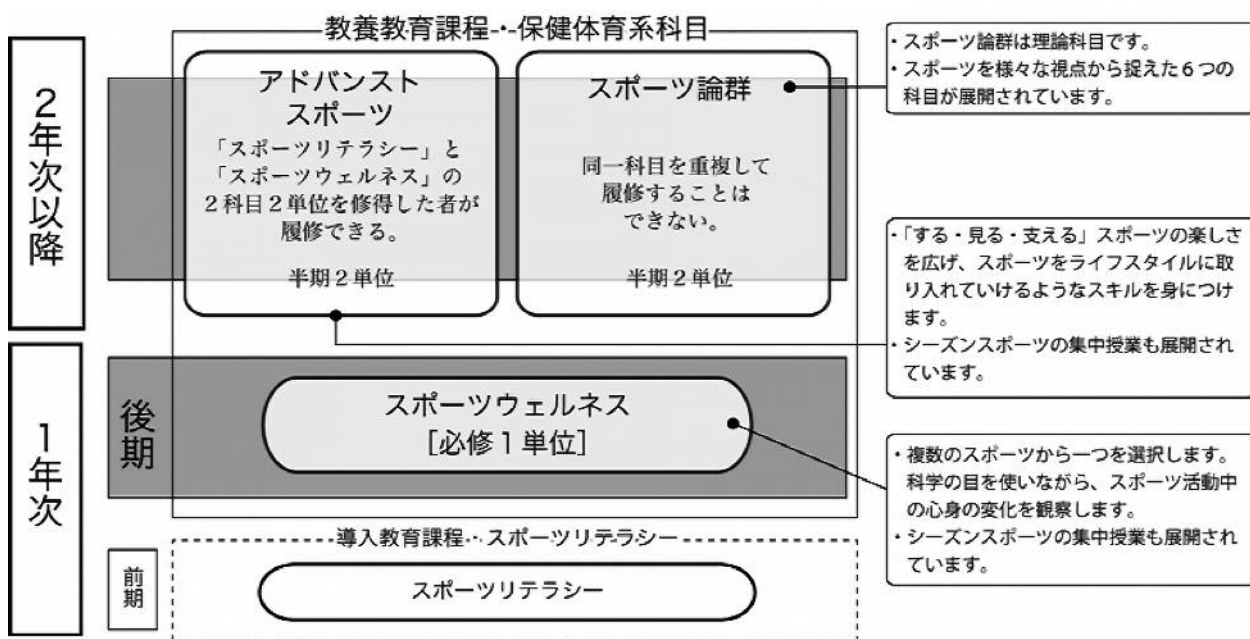
「スポーツウェルネス」とは、「スポーツ実践を通じて、積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことを言います。スポーツウェルネスでは、スポーツを通じた身体活動が、健康なライフスタイルの創造に貢献することを体感し、「学びの力」の土台となる心身の健康の維持増進を果たすとともに、将来における健康面の課題を解決するための運動習慣の醸成を図ります。

「アドバンストスポーツ」を学ぶ

「アドバンストスポーツ」では、スポーツを専門的レベルから学びます。対象スポーツにおける幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともに、ビデオを利用したゲーム分析、審判法やマッチメイク等のマネジメントについての学修などにより、スポーツをライフスタイルの中に取り込み、生涯にわたり身体的、精神的、社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につけることを目的としています。

「スポーツ論群」を学ぶ

「スポーツ論群」は理論科目です。スポーツが有する多角的な価値について、社会科学、自然科学、人文科学などの視点から学び、世界共通の人類の文化であるスポーツに関する教養を深めるとともに、在学時および卒業後において日常的にスポーツに親しみ、スポーツを通じて地域社会と積極的に関わりながら心身の健全な発達、明るく豊かな生活の形成に繋げることのできる能力の醸成を目指します。



注意事項

- ◎「スポーツリテラシー」と「スポーツウェルネス」は同一年度に同一科目を重複して履修することはできません。例えば、「スポーツリテラシー」(前期)でテニスを履修した場合、「スポーツウェルネス」(後期)でテニスを履修することはできません。但し、「スポーツリテラシー」でゴルフを履修し、「スポーツウェルネス」で集中授業のゴルフを履修することは可能です。
- ◎「アドバンストスポーツ」は同一科目を重複履修、また複数科目を履修することができます。
- ◎「スポーツ論群」は、同一科目でなければ複数履修することができます。
- ◎個々の科目内容については、Web講義要項(シラバス)を参照してください。

IV 外国人留学生の特例履修科目

導入教育課程・外国語基礎科目

1 年次	日本語文章理解 1 → 日本語文章理解 2	半期	2 科目	2 単位
(必修科目)	日本語音声理解 1 → 日本語音声理解 2	半期	2 科目	2 単位
	日本語口頭表現 1 → 日本語口頭表現 2	半期	2 科目	2 単位
	日本語文章表現 1 → 日本語文章表現 2	半期	2 科目	2 単位

注意事項

- ◎矢印で結ばれた科目（前期 1 → 後期 2）は、同一曜日・時限、同一担当の科目をセットで履修してください。
- ◎前期 1 を修得できなかった場合は、後期 2 の履修登録を削除しなければなりません。

教養教育課程・留学生専修科目

1 年次					
(必修科目)	一般日本事情 1	一般日本事情 2	半期	2 科目	4 単位

教養教育課程・外国語系科目

2 年次以上	応用日本語理解 1	応用日本語理解 2	半期	2 科目	2 単位
(選択科目)	応用日本語表現 1	応用日本語表現 2	半期	2 科目	2 単位

注意事項

- ◎応用日本語科目の履修には、前年度までに「日本語文章理解 1」、「日本語文章理解 2」、「日本語音声理解 1」、「日本語音声理解 2」、「日本語口頭表現 1」、「日本語口頭表現 2」、「日本語文章表現 1」、「日本語文章表現 2」の単位をすべて修得していなければなりません。
- ◎応用日本語科目は、同一年度に同一科目を履修することはできませんが、年度を変えれば、それぞれ 1 で 3 科目 3 単位、2 で 3 科目 3 単位まで履修することができます。
- ◎応用日本語科目は、自由選択修得要件単位として卒業要件単位に換算されます。
- ◎母語の科目を、外国語基礎科目および外国語系科目（世界の言語と文化、言語文化研究を除く）として履修することはできません。

第3章

専門教育課程の学び方

専門科目では何を学ぶか

心 理 学 科

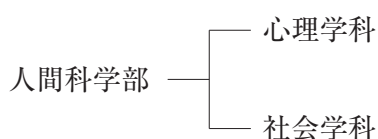
社 会 学 科

専門科目では何を学ぶか

第1章で記したように、本学における教育は、「転換・導入教育課程」、「教養教育課程」および「専門教育課程」に分かれている。「転換・導入教育課程」「教養教育課程」は全学の学生を念頭に入れて、みなさんが豊かな教養をもった社会人として社会に巣立っていく基礎を築くために設けられている。

これに対し、「専門科目」は、みなさんが所属する学部の特徴を最もよく示すものである。

人間科学部は、2010年4月から心理学科、社会学科の2学科で構成される学部として発足した。



人間科学部の各学科が設けている「専門科目」の学び方は、以下の各学科のガイドブックをみてもらうことにして、ここでは専門科目の学び方にかかわる一般的な点について述べておく。

人間科学部の各学科の設けている多様な「専門科目」の多くは、「講義」・「実習・実験」・「ゼミナール」の授業形式を採っている。そして、各学科の科目設置の主旨にもとづき各学年に配当されているものであるから、その主旨を理解した上で履修してもらいたい。

「講義」・「実習・実験」・「ゼミナール」は、それぞれが独立した授業の「ねらい」を持っているが、他の授業と深い連関を持つ場合が少なくない。この連関を考えない履修は、せっかくの専門科目の履修の効果を削ぐことがある。

とりわけ、各学科が配慮して学年配当し、「積み上げによる学修」効果を期待した科目の履修にあたっては、連関を意識して受講する格段の熱心さが求められている。

また、人間科学部は、「教師・学生の顔の見える少人数教育」を重視している。

ゼミナールは、学生が「調べる」—「報告する」—「討議する」ことを通じてより深い理解に到達する授業形式で、最も大学の授業らしい授業である。

こうした点に留意して、大学で主体的に学んでいって欲しいと思う。大学で主体的に学ぶとは、自らの知的要求や将来の目的を基礎において、ひとつに授業科目間の「連関」を探し出し、「私なりの時間割」を作り出すことにあるのである。

心理学科

I 心理学科の学生のために

1. 心理学科の特色

心理学は人間性の理解をめざす学問分野の1つであり、人間の意識や行動、そしてそれをもたらす精神活動や心理的機能について、実証的・科学的に解明していくことをめざしている。わたしたちの意識や行動は、物的・対人的・社会的・文化的な環境とのかかわりで生じるが、一方、精神活動や心理的機能は、わたしたちの身体、特に脳・神経系を基盤にして営まれていると考えられる。その意味で、心理学は人文科学・自然科学・社会科学の接点に位置しており、方法や技法の点でも、心理学独自のものに加えて、諸科学のものを取り入れながら、学際的に研究が進められている。

以上の枠組みにしたがって、次のような教育が提供されることになる。心理学のさまざまな領域でこれまでに蓄積されてきた研究成果や、展開されてきた理論を習得するとともに、実証科学としての心理学の研究方法を実習を通して体得し、現代の心理学の諸問題について、みずからが主体的に思考し、みずから立案した実証的な研究を通してその思考を妥当化する試みを体験することができる教育。

この教育が目標とするところは、次のような人材の育成にある。

- ① 大学院へ進学し、将来研究者として心理諸科学の進歩に寄与しうる人材
- ② 学部卒業後もしくは大学院へ進学した後に「臨床心理士」をはじめとする心理系の資格を取得し、広くひとのこころの健康のために貢献しうる人材
- ③ 国家・地方公務員として、あるいは民間企業の中で、心理学の知識を活かしながら、各部門で責任ある指導的役割を果たしうる人材
- ④ 心理学とは直接には関連しない職責にあっても、心理学教育を受けたことで獲得した人間と科学に対する深い理解をもつ常識ある人材

2. 1年次でどう学ぶか

大学における学修は、高校時代までのようにあらかじめ設定された時間割にしたがって教員から一方的に与えられるものを受動的に受け入れるというかたちをとるのではなく、みずからの志向に合わせて主体的に科目の選択を行い、学修対象に積極的にはたらきかけながら学び取るという姿勢でなされてはじめて実を結ぶことになる。これは、「転換・導入教育課程」「教養教育課程」「専門教育課程」のいずれについても異なるところはない。これまでの受け身の学習法を払拭して、知識を学問として、すなわち体系的・理論的・体験的に学び、主体的能動的に考えぬくという学習態度をぜひ体得してほしい。

卒業までに124単位以上を修得しなければならないが、1年次には修得単位の目安を38単位とし、これを充たすように履修計画を立ててほしい。

「専門科目」は、1年次には「心理学概論A・B」「心理学データ解析1A・1B」「心理学基礎実験1」の5科目が必修である。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

大学を卒業するために必要な要件と、科目の具体的な履修方法について概説する。よく読んで、これに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要であるが（一般的な要件については、p. 15「大学卒業の要件」を参照）、心理学科生は以下の表に示した要件を充たさなければならない。次項「科目の履修方法」を読み、具体的な履修方法を理解した上で、あらためてこの表を見直し、要求されているものが何であることを確認してほしい。

		区 分		卒業要件	
転換・導入教育課程	専修大学基礎科目	専修大学入門科目		必履修	9
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学			
		外国語基礎科目	英語	4	
			英語以外の外国語	4	
スポーツリテラシー		1			
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目		8	9
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
		外国語系科目	英語		
			英語以外の外国語		
			海外語学研修		
		保健体育系科目	スポーツウェルネス	1	
			アドバンススポーツ		
			スポーツ論群		
自由選択修得要件単位				22	
専門教育課程	専門科目	必修科目		32	84
		選択必修科目		32	
		選択科目		20	

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意を払ってほしい。

- ① 「専修大学基礎科目」9単位「教養科目」9単位以上、「専門科目」84単位以上、「自由選択修得要件単位となる科目」22単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。
- ② 各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）があるので、この指針にもかなうように毎年の履修計画を立ててほしい。
- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならない。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修しておく方が望ましい。
- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できない。一度に同一名称の科目を2つ以上履修することはできないし、一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

以上の点を考慮し、自分の興味と関心にしながら自由で意欲的な時間割を組んでほしい。さらに具体的な履修方法については以下に詳説するが、まず、pp.73～74の「心理学科専門科目一覧」を概観して、カリキュラムの大筋を頭に入れてほしい。

(1) 転換教育課程，導入教育課程，教養教育課程科目の履修方法

転換教育課程，導入教育課程，教養教育課程にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意しなければならない。それぞれの課程については、転換教育課程科目はp.27に、導入教育課程科目はpp.28～36に、教養教育課程科目についてはpp.37～55に、それぞれ詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程に配置されている専修大学入門ゼミナールは、1年次前期に展開されているものを必ず履修しなければならない。単位の修得は卒業要件に含まれていないが、履修しないものは卒業することができないので注意が必要である。

2) 導入教育課程（専修大学基礎科目）

① 外国語基礎科目

(i) 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English (RL) 1a（前期）、1b（後期）またはIntermediate English (RL) 1a（前期）、1b（後期）の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1a（前期）、1b（後期）またはIntermediate English (SW) 1a（前期）、1b（後期）の2科目を履修する。1年次にこれらの単位を修得できなかった場合には、再履修科目として2年次以降に半期科目のGeneral English 1（2単位）を履修して単位を修得する必要があるので注意すること。

(ii) 英語以外の外国語

1年次でドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、ロシア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級101a(前期)、初級101b(後期)の2科目と、初級102a(前期)、初級102b(後期)の2科目を履修する。

② スポーツリテラシー

スポーツリテラシーは、1年次の前期に1単位を必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の科目

上記以外の導入教育科目に配置された科目(キャリア入門、情報入門Ⅰ、情報入門Ⅱ、あなたと自然科学)は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。ただし、情報入門で扱う内容については心理学科のカリキュラムでも対応がなされているので、心理学科生は取ってこれらの科目を履修するには及ばない。

3) 教養教育課程(教養科目)

① 人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位修得しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので履修する際には注意が必要である。人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は1、2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は3、4年次で再履修することはできない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。融合領域科目は2年次以降に開講される。時間割は年度ごとに変動することがあるが、専門科目の必修科目と時間割が重複する場合があるので注意すること。

② 保健体育系科目

スポーツウェルネスは、1年次の後期に1単位必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の教養教育課程科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門科目の履修方法

開講される具体的な科目名称等については、pp.99～100「人間科学部専門科目一覧」を見てほしい。

科目の中には、必ず単位を修得しなければならない「必修科目」(上記一覧で○印のついている科目)、開講された科目中から指定された科目数・単位数だけ必ず修得しなければならない「選択必修科目」(◎印のついている科目)、多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる「選択科目」(△印のついている科目)、の3通りがある。

なお、科目の中には、年間を通して授業を行う「通年科目」と、半年で終了する「半期科目」とがある。また、毎年開講する科目の他に、隔年で開講される「隔年科目」が置かれる場合がある。

履修計画を立てる上で注意してほしい。

① 必修科目

必修科目としては、「心理学概論A・B」(1年次・各2単位)、「心理学データ解析1A・1B」(1年次・各1単位)、「心理学基礎実験1」(1年次・2単位)、「心理学基礎実験2」(2年次・4単位)、「心理学研究法1」(3年次・4単位)、「心理学講読1」(3年次・4単位)、「心理学研究法2」(4年次・4単位)、「卒業論文」(8単位)がある。原則として、それぞれの配当年次に履修すること。

心理学概論A・B 広範な心理学の諸領域の研究を理解する上で必要な心理学の基礎的な概念が解説される。

心理学データ解析1A・1B 科学としての心理学の出発点であるデータの測定法と分析法の基礎について学習する。1年次に単位を修得すること。

心理学基礎実験1 標準化された心理学実験・心理テスト・社会心理調査を中心に、その実施方法、得られたデータの整理・処理法、さらに処理結果を評価し、レポートにまとめる手順についての実習を行う。

心理学基礎実験2 「心理学基礎実験1」をさらに発展させた技法と概念を実習する。原則として、「心理学基礎実験1」が履修済みであることが前提となる。

心理学研究法1 心理学のいくつかの研究領域について、その領域固有の問題を、その領域固有の方法で実習する。研究の立案からその実施・分析・報告まで、1年を通して指導する。これは卒業論文作成のための基礎となるものであるので、原則として、「心理学基礎実験2」が履修済みであることが前提である。なお、同一年度に「心理学研究法1」を複数(並列で)履修することは出来ない。また、「心理学研究法1」の単位を修得しない限り、4年次配当の必修科目である「心理学研究法2」の履修はできない。そのため、3年次にこの単位を修得できなければ、4年次に「心理学研究法2」を履修できず、4年間で卒業することが不可能になる。

心理学講読1 指導教員別に小グループで特定のテーマの下に、重要文献を講読したり文献研究をしたりする。

心理学研究法2 「心理学研究法1」をさらに発展させて研究を進めて論文にまとめる。「心理学研究法1」の単位を修得していることが必須となる。原則として、「卒業論文」の指導教員が担当する授業を履修する。また、研究テーマが大きく変更した場合を除き、自分自身が受講した「心理学研究法1」の担当教員が展開する「心理学研究法2」を履修すること。加えて、「心理学研究法1」同様に、同一年度に「心理学研究法2」を複数(並列で)履修することは出来ない。

卒業論文 これまで学修してきたことを足場にして、各自のテーマについて自分なりの研究成果を、所定の様式にしたがって論文の形に仕上げる。

「卒業論文」は4年間の学修の総決算であり、学んできたことの最大の証となる。何かを学んだという実感が残る論文を書き上げるよう、取り組んでほしい。そのためには、学問のレベルを突破しようとする野心をもって臨まなければならない。

各人のテーマによって指導教員が決まるので、「心理学研究法1」の担当教員とよく相談して

おくこと（4年次になると何かと対外的に忙しくなるので計画性をもってほしい）（「卒業論文」については、p.21参照）。なお、「心理学研究法2」の履修が出来ない学生には、「卒業論文」の提出は認めない。また、「卒業論文」の作成にあたり、その進捗状況を報告する中間発表を義務づける。

所定の単位を修得し、中間発表を行い「卒業論文」を提出し、その口述試験に合格して初めて学士（心理学）の学位が与えられることになる。

② 選択必修科目

1・2年次に担当されている「心理学コンピュータ実習A・B」、2・3年次に担当されている「知覚心理学A・B」「認知心理学A・B」「学習心理学A・B」「生理心理学A・B」「発達心理学A・B」「社会心理学A・B」「人格心理学A・B」「臨床心理学A・B」「犯罪心理学A・B」「心理学データ解析2A・2B」の20科目、3・4年次に担当されている「心理学の思想と歴史A・B」「情報処理心理学実習A・B」、4年次に担当されている「心理学講読2」、計27科目のうちから15～17科目32単位を必ず修得しなければならない。

これらの科目は、発展的なデータの解析手法や情報処理技能の習得、文献研究や重要文献の輪読、心理学の諸領域（各論）におおよそ該当している講義、からなっている。

配当年次が複数にわたる科目は、計画的になるべく低年次で履修する方が望ましい。

③ 選択科目

「専門科目」の「卒業要件単位」は84単位であるが、このうち「必修科目」で32単位、「選択必修科目」で32単位、計64単位が充当されるので、残り最低20単位は「選択科目」によって充当することになる。

(a) 「基礎心理学特殊講義1～10」と「心理学特殊講義1～10」は、「選択必修科目」の各論的講義においてはカバーできない発展的な特殊問題・領域を取り上げる講義となる。また「精神病理学A・B」と「臨床心理学実習A・B」は、臨床心理学を深めるための医学的内容の講義と体験実習である。

「基礎心理学特殊講義1～10」と「心理学特殊講義1～10」は、個々の講義の内容が年度ごとに変わる可能性があるため、講義要項を参照すること。心理学のどの側面に関心を持ち、学習・研究をしたいかに応じて、選択するとよいであろう。

(b) 前記「選択必修科目」の項であげられた科目のうち、32単位を超えて修得した場合、それらはすべて「選択科目」の単位として算定される。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

「自由選択修得要件単位となる科目」とは、上記の卒業要件単位を修得した上で、さらに修得しなければならない22単位分の科目の総称である。「自由選択修得要件単位となる科目」に算入されるのは以下の6つである。

- a. 転換・導入教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した心理学科開講の専門科目の単位。

- d. 心理学科の学生に受講が認められている人間科学部他学科開講の専門科目の単位。
- e. 教職に関する科目ならびに司書・司書教諭課程科目の単位。ただし8単位まで。(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- f. 心理学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし22単位まで。

「自由選択修得要件単位となる科目」は、科目区分にとらわれず、自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ、自由で独創的なカリキュラムを組んでもらいたい。「卒業要件単位」(計124単位)というのは、あくまで卒業に必要な最低限の学習量を示すに過ぎない。人間性の理解にあたっては、広い視野と多角的な視点をもつ必要があるので、各自の興味と関心の広がりに応じて、選択履修の幅をさらに広げることが望まれる。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

心理学科の「必修科目」は、専門の10科目32単位である。なんらかの理由でこれらの単位を指定年次に修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。「再履修」の必修科目はすべてに優先して履修しなければならない点を銘記しておいてほしい。

なお、一度単位を修得した科目の「再履修」はできない。

② 選択必修科目・選択科目の再履修

「選択必修科目」「選択科目」の単位を履修登録年次に修得できなかった場合は、翌年次以降に必ずしも同一名称の科目を「再履修」する必要はない。別の科目の単位を修得して「卒業要件単位」を充たすことが可能である。もちろん再履修してもよい。

(5) 資格取得を希望する者に対する履修上の注意

① 「認定心理士」について

卒業後、社団法人日本心理学会「認定心理士」の資格取得を希望する場合は、同学会が指定する科目を履修して単位を修得し、認定を受けなくてはならない。p.68に学会による科目指定の概略と本心理学科の開講科目との対応を示す。

② 「臨床心理士」について

将来、財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」の資格取得をめざす場合は、原則として、大学院(心理学専攻)の修士課程を修了しなければならないが、学部段階においても、ある程度広い範囲におよぶ基礎的な知識および技能を習得しておくことが要望されている。その範囲は、上記「認定心理士」の資格申請に必要な科目範囲に準じるものである。

③ 「産業カウンセラー」について

社団法人日本産業カウンセラー協会の「産業カウンセラー」の受験資格は、大学で心理学または隣接する諸科学を専攻し学士の学位をもつ者等となっている。また、「シニア産業カウンセラー」は同じく修士の学位をもつ者等となっている。

なお、各資格についての詳細は下記の手引きに説明されている。手引きは心理学研究室に備えられているので、参照のこと。

日本心理学会（監修）『日本心理学会認定心理士資格申請手引き』日本心理学会
日本臨床心理士資格認定協会（監修）『臨床心理士になるために』誠信書房

「認定心理士」資格取得のための科目概要

科目分類	領域	心理学科における該当科目			備考
		科目名	認定される単位数	配当年次	
(1) 基礎科目	(A) 心理学概論	心理学概論A・B 心理学の思想と歴史A・B	基本主題各2 副次主題各1	1 3・4	「基礎科目」はA・Bの各領域4単位以上、C領域3単位以上で、小計が12単位以上。 ただし、各領域とも基本主題2単位以上を含むこと。 （臨床心理学実習A・Bは、(C)の副次主題1単位か(G)の基本主題各1単位のいずれか一方のみで認定を受けること）
	(B) 心理学研究法	心理学データ解析1 A・1 B 心理学研究法1 心理学研究法2 心理学データ解析2 A・2 B	基本主題各1 基本主題4 基本主題4 基本主題各1	1 3 4 2・3	
	(C) 心理学実験・実習	心理学基礎実験1 心理学基礎実験2 心理学コンピュータ実習A・B 情報処理心理学実習A・B 臨床心理学実習A・B	基本主題2 基本主題4 副次主題各1 副次主題各1 副次主題各0.5	1 2 1・2 3・4 4	
(2) 選択科目	(D) 知覚心理学 学習心理学	知覚心理学A・B 認知心理学A・B 学習心理学A・B	基本主題各2 基本主題各2 基本主題各2	2・3 2・3 2・3	「選択科目」はD・E・F・G・Hの5領域中3領域が各4単位以上で、かつ、5領域の小計が16単位以上。
	(E) 教育心理学 発達心理学	発達心理学A・B	基本主題各2	2・3	
	(F) 生理心理学 比較心理学	生理心理学A・B	基本主題各2	2・3	
	(G) 臨床心理学 人格心理学	臨床心理学A・B 人格心理学A・B 犯罪心理学A・B 臨床心理学実習A・B	基本主題各2 基本主題各2 基本主題各2 基本主題各1	2・3 2・3 2・3 4	
	(H) 社会心理学 産業心理学	社会心理学A・B	基本主題各2	2・3	
(3) その他の科目	(I) 心理学関連科目 卒業論文・卒業研究	卒業論文 心理学講読1 心理学講読2 基礎心理学特殊講義1～10 心理学特殊講義1～10 精神病理学A・B	4 4 4 各2 各2 各2	4 3 4 3・4 3・4 3・4	基礎心理学特殊講義、心理学特殊講義は、その内容に応じて、領域(A)～(H)のいずれかの基本主題または副次主題の単位として認定されることがある。(1)、(2)の合計単位数が36単位以上の場合には必ずしも必要ではない。

心理学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

区分	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	卒業要件単位	備 考		
専修大学 転換・導入 教育基礎 課程科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール						
	キャリア教育関連科目	キャリア入門				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。		
	情報リテラシー関連科目	情報入門 I 情報入門 II						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	英語	A 群 Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1)	General English 1 (1)			2	General English 1は、英語 A・B群の単位を修得できなかった場合に履修する科目。	
		B 群 Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)		General English 1 (1)	2			
	外国語 基礎 の 外国語	ドイツ語初級 101 a (1) ドイツ語初級 101 b (1) ドイツ語初級 102 a (1) ドイツ語初級 102 b (1) フランス語初級 101 a (1) フランス語初級 101 b (1) フランス語初級 102 a (1) フランス語初級 102 b (1) 中国語初級 101 a (1) 中国語初級 101 b (1) 中国語初級 102 a (1) 中国語初級 102 b (1) スペイン語初級 101 a (1) スペイン語初級 101 b (1) スペイン語初級 102 a (1) スペイン語初級 102 b (1) ロシア語初級 101 a (1) ロシア語初級 101 b (1) ロシア語初級 102 a (1) ロシア語初級 102 b (1) インドネシア語初級 101 a (1) インドネシア語初級 101 b (1) インドネシア語初級 102 a (1) インドネシア語初級 102 b (1) コリア語初級 101 a (1) コリア語初級 101 b (1) コリア語初級 102 a (1) コリア語初級 102 b (1)				4	1年次で同一言語の101 a・bと102 a・bを履修しなければならない。 同一言語の初級科目をすべて (4科目4単位) 履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。	
		スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)				1	
		人文科学基礎 関連科目	作品を創る1 作品を創る2 世界の文学を読む 越境する文学への招待 英語圏の視点・民衆 歴史と地域・文化	哲学入門 哲学の歴史 日本思想は何か 倫理学入門 論議と芸術学入門	芸術の歴史1 芸術の歴史2 異文化の現場から 人類の暮らしと自然世界 人類学から見た近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代			卒業要件単位8単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成 (履修) することができる。
		社会科学基礎 関連科目	日本国憲法 社会学入門 政治学と社会 経済学と社会 地理学と社会 自然環境の地理学	人文・社会環境の地理学 社会学入門 現代社会学 社会学の方法 社会学の概観 社会学思想と歴史	教育学入門 学びの場の教育学 教育と社会のダイナミクス 情報社会と人間 (環境と認知) 情報社会と人間 (情報デザイン) はじめての経営 マーケティングベーシックス			
自然科学系科目		基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験 生物学101 生物学102 生物学201 生物学202	生物学301 生物学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302	物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302	数理学101 数理学102 数理学201 数理学202 数理学301 数理学302	科学論・科学史101 科学論・科学史102 科学論・科学史201 科学論・科学史202	8
融合領域科目			学際科目101 学際科目102 学際科目103 学際科目104	学際科目105 学際科目106 学際科目107 学際科目108	学際科目109 学際科目110 学際科目111 (4) 学際科目112 (4)	学際科目113 (4) 学際科目114 (4) 学際科目115 (4)		
			テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208		
			新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305			
			教養テーマゼミナール I (4)		教養テーマゼミナール II (4)	教養テーマゼミナール III (4)		
教養 育 科 目		英語	English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。	
	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b		English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b		English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。		
	基礎	ドイツ語中級 201 a (1) ドイツ語中級 201 b (1) ドイツ語中級 202 a (1) ドイツ語中級 202 b (1) フランス語中級 201 a (1) フランス語中級 201 b (1) フランス語中級 202 a (1) フランス語中級 202 b (1)	中国語中級 201 a (1) 中国語中級 201 b (1) 中国語中級 202 a (1) 中国語中級 202 b (1) スペイン語中級 201 a (1) スペイン語中級 201 b (1) スペイン語中級 202 a (1) スペイン語中級 202 b (1)	ロシア語中級 201 a (1) ロシア語中級 201 b (1) ロシア語中級 202 a (1) ロシア語中級 202 b (1) インドネシア語中級 201 a (1) インドネシア語中級 201 b (1) インドネシア語中級 202 a (1) インドネシア語中級 202 b (1)	コリア語中級 201 a (1) コリア語中級 201 b (1) コリア語中級 202 a (1) コリア語中級 202 b (1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。	
		ドイツ語中級プラス 201 a ドイツ語中級プラス 201 b ドイツ語中級プラス 202 a ドイツ語中級プラス 202 b フランス語中級プラス 201 a フランス語中級プラス 201 b	フランス語中級プラス 202 a フランス語中級プラス 202 b 中国語中級プラス 201 a 中国語中級プラス 201 b 中国語中級プラス 202 a 中国語中級プラス 202 b	スペイン語中級プラス 201 a スペイン語中級プラス 201 b スペイン語中級プラス 202 a スペイン語中級プラス 202 b コリア語中級プラス 201 a コリア語中級プラス 201 b			修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目2単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。	
	応用	ドイツ語上級 301 a ドイツ語上級 301 b フランス語上級 301 a フランス語上級 301 b 中国語上級 301 a 中国語上級 301 b スペイン語上級 301 a スペイン語上級 301 b		ロシア語上級 301 a ロシア語上級 301 b インドネシア語上級 301 a インドネシア語上級 301 b コリア語上級 301 a コリア語上級 301 b			修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目、同一年度に4単位、年度を越えてさらに4単位、合計8単位まで履修することができる。	
		選択ドイツ語 101 a (1) 選択ドイツ語 101 b (1) 選択フランス語 101 a (1) 選択フランス語 101 b (1) 選択中国語 101 a (1) 選択中国語 101 b (1)	選択スペイン語 101 a (1) 選択スペイン語 101 b (1) 選択コリア語 101 a (1) 選択コリア語 101 b (1) 選択アラビア語 101 a (1) 選択アラビア語 101 b (1)	選択イタリア語 101 a (1) 選択イタリア語 101 b (1)			修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一言語の選択101 a・bをセットで履修する。 同一言語の初級101 a・b, 102 a・bをすべて (4科目4単位) 履修あるいは修得した場合、同一言語の選択101 a・bを履修することはできない。	
	世界	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(コリア語)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。	
		言語文化研究 (ヨーロッパ) 1 言語文化研究 (ヨーロッパ) 2	言語文化研究 (アジア) 1 言語文化研究 (アジア) 2	言語文化研究 (アメリカ)				
	海外 語学 研修	海外語学短期研修1 (外国語)	海外語学短期研修2 (外国語)				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定される。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。	
		海外語学中期研修1 (外国語) 海外語学中期研修2 (外国語) 海外語学中期研修3 (外国語)	海外語学中期研修4 (外国語) 海外語学中期研修5 (外国語) 海外語学中期研修6 (外国語)	海外語学中期研修7 (外国語) 海外語学中期研修8 (外国語)				
保健 体育 系 科目	スポーツウェルネス	スポーツウェルネス (1)				1		
	アドバンストスポーツ	アドバンストスポーツ				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することはできない。		
	健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達		オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ				
自由選択修得要件単位					22			

心理学科 (外国人留学生) 転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

Table with columns: 区分, 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 卒業要件単位数, 備考. Rows include: 専修大学入門科目, 専修大学入門ゼミナール, キャリア教育関連科目, 情報リテラシー関連科目, 基礎自然科学, 外国語基礎科目, スポーツリテラシー, 留学生専修科目, 人文科学基礎関連科目, 社会科学基礎関連科目, 自然科学系科目, 融合領域科目, 教養科目, 外国語科目, 海外語学研修, 保健体育系科目.

自由選択修得要件単位

22

社会学科

I 社会学科の学生のために

1. 社会学科の特色

社会学は現実認識の学として、社会の全体的な構造やその変動の法則、そしてそこに生きる人間そのものを研究するという目的をもっている。こうした目的のもとで、具体的にはさまざまな社会現象を、主として社会関係や社会集団などの「共同生活」の諸側面から、経験的・実証的な方法で研究する。

以上のような考え方にもとづき社会学科では、人びとの日常生活の場を主要な研究・学習の領域とし、そこに現れてくる人間の行為や意識、社会関係や組織などの実態を調査・研究することにより、現代社会の構造とその問題性を明らかにし、それがどこから生じ、どこに行くのか、過去と現在との対話をとおして未来を見とおすことを目指している。そのために、「文化・システム」系、「生活・福祉」系、「地域・エリアスタディーズ」系という3つのゆるやかに結びあう研究・学修領域を設定している。

「文化・システム」系では、経験的調査と社会理論、社会構造と社会意識を接続しながら、社会と個人の全体的解明を目指す。「生活・福祉」系においては、人の生活の場としての「家庭と職場」、人の成長プロセスとしての「子どもから高齢者」を軸に、人間生活の基礎的単位の基本的な理解と、それらを踏まえた上での実証的研究を目指す。「地域・エリアスタディーズ」系領域では、生活が営まれる地域に焦点をあわせ、現代の地域がグローバル化の過程におかれている現状を踏まえ、地域、都市の構造と変容を実証的に研究する。

この3つの系に専任教員が担当する14の専門的学修分野を配置し、さらに「現実科学としての社会学」「実証科学としての社会学」であることを前提に、調査研究とゼミナール教育を重視したカリキュラムを組んでいる。

社会学科では、①個人的な問題が社会の諸制度とのかかわりの中で生じていることを理解した上で、社会学の知識や理論を修得していること。②社会調査の手法をはじめとしてさまざまな科学的・実証的研究の方法を修得し、自らの思考を文書や口頭によって分かりやすく伝えることができること。③諸社会が有する文化や価値の多様性に関心を持ち、他者理解を深めることができること。④これらの能力を総合的に駆使して、社会における実践的な要請に応えるようにすること、を教育目標としている。これらの教育をとおして、(1)社会状況を的確に判断し、企業、自治体、公共機関、教育機関、市民団体、各種調査研究機関、国際機関等々で、現場に立ちながら着実に活動できる人材、(2)大学院に進学し、将来研究者として学問の発展に寄与する人材ならびに専門的職業人の育成を目指している。

2. 1年次でどう学ぶか

大学での学修は、あらかじめ設定された時間割表が与えられ受動的に履修をする高等学校までの学修とは異なり、自らの関心にあわせて自分で科目を選択し、同時に、決められた卒業要件の必修単位は最低限満たすように、自分で履修を組んでいかなければならない。これは、「転換・導入教育課程」「教養教育課程」「専門教育課程」いずれについても同じである。

社会学科が設けている「専門科目」には、「講義」・「実習」・「ゼミナール」の3つの授業形式がある。科目の学年配当に留意しつつ、自らの関心や将来の目標に見合った、主体的に学ぶ「私なりの時間割」を作成してほしい。

卒業までに124単位以上を修得しなければならないが、1年次には修得目標として最低限38単位を目安に、履修計画を立ててほしい。「教養科目」のうち「人文科学基礎関連科目」「社会科学基礎関連科目」は1・2年次にしか開講されていない。「教養科目」のその他の科目についても、上級年次になると専門科目の履修が多くなるので、教養科目をできるだけ低年次で履修しておくことが望まれる。

「専門科目」は、1年次には「社会学原論1, 2」「社会調査の基礎」「調査設計と実施方法」「データ分析法実習」が必修科目としておかれている。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

大学を卒業するために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説する。説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要であるが（一般的な要件については、p.15「大学卒業の要件」を参照）、社会学科の学生は、以下の表に示した要件を充たさなければならない。次項「科目の履修方法」を読んで、具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し、要求されるものが何であるかを確認してほしい。

区 分			卒業要件		
転換・導入教育課程	専修大学入門科目		2	13	
	専修大学基礎科目	専門入門ゼミナール	2		
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学	必履修		
		外国語基礎科目	英語		4
			英語以外の外国語		4
スポーツリテラシー	1				
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目	8	9	
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
		外国語系科目	英語		
			英語以外の外国語		
			海外語学研修		
		保健体育系科目	スポーツウェルネス		1
			アドバンストスポーツ		
			スポーツ論群		
自由選択修得要件単位			20		
専門教育課程	専門科目	必修科目	26	82	
		選択必修科目	32		
		選択科目	24		

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意を払ってほしい。

- ① 「専修大学入門科目」「専修大学基礎科目」で13単位以上、「教養科目」9単位以上、「専門科目」82単位以上、「自由選択修得要件単位となる科目」20単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。
- ② 各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）があるので、この条件も満たすように毎年の履修計画を立ててほしい。
- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならない。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修しておく方が望ましい。
- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できない。一度に同一名称の科目を2つ以上履修することはできないし、一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

さらに具体的な履修方法について以下に詳説するが、教養科目についてはpp.91～92の

「社会学科転換・導入教育課程，教養教育課程科目一覧」，専門科目については pp.95～96 の「社会学科専門科目一覧」を参照しながら，カリキュラムの大筋をつかんでほしい。

(1) 転換教育課程，導入教育課程，教養教育課程の履修方法

転換教育課程，導入教育課程，教養教育課程にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので，履修に際しては注意しなければならない。転換教育課程は p.27 に，導入教育課程は pp.28～36 に，教養教育課程については pp.37～55 に詳しい説明があるので，それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換教育課程（専修大学入門科目）

転換導入課程の1年次前期に配置されている専修大学入門ゼミナールは，必修科目なので1年次に2単位を必ず修得しなければならない。

2) 導入教育課程（専修大学基礎科目）

① 専門入門ゼミナール

社会学科では，専門入門ゼミナールを，1年次の後期に配置している。これから社会学を学んでいく上での入門科目として必修科目に指定している、1年次に2単位を必ず修得しなければならない。

② 外国語基礎科目群

(i) 英語

1年次で英語4科目を履修し，前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群の Basics of English (RL) 1a（前期），1b（後期）または Intermediate English (RL) 1a（前期），1b（後期）の2科目と，B群の Basics of English (SW) 1a（前期），1b（後期）または Intermediate English (SW) 1a（前期），1b（後期）の2科目を履修する。

(ii) 英語以外の外国語

1年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して，前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級101a（前期），初級101b（後期）の2科目と，初級102a（前期），初級102b（後期）の2科目を履修する。

③ スポーツリテラシー

スポーツリテラシーは，1年次の前期に1単位を必ず修得しなければならない。

④ 基礎自然科学（あなたと自然科学）

社会学科では必ず履修しなければならない「必履修」科目である（必履修科目とは、単位修得は義務付けられていない科目である）。

⑤ 上記以外の科目

上記以外の導入教育科目に配置された科目（キャリア入門，情報入門Ⅰ，情報入門Ⅱ）は選択科目として履修することができる。習得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3) 教養教育課程（教養科目）

① 人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位履修しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので履修する際には注意しなければならない。人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は1，2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は3，4年次で再履修することはできない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。融合領域科目は2年次以降に開講される。

② 保健体育系科目

スポーツウェルネスは，1年次の後期に1単位必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の教養教育課程科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目の中には，必ず修得しなければならない必修科目（pp.95～96「社会学科専門科目一覧」で○印のついた科目），開講された科目の中から指定された数だけ必ず修得しなければならない選択必修科目（◎印のついた科目），多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目（△印のついた科目）の3通りがある。

なお，科目の中には，年間を通して授業を行う通年科目と，半年で完了する半期科目とがある。また，毎年開講する科目と隔年に開講する科目とがある。履修計画を立てる上で，注意してほしい。

その上で，可能な範囲で出来るだけ多く履修し，幅広い学習を通して，総合的な視野を持つようにしてほしい。

A. 社会学科のカリキュラム編成の特徴

専門科目の履修方法を説明するにあたって，まず，社会学科のカリキュラム編成の特徴を簡単に示すと，次頁のようになる。

教育システム（カリキュラム編成）の特徴

(1) 主要研究・学修領域と専門学修分野

1) 基礎部門

- ① 社会学の基礎 社会学原論, 社会調査の基礎, データ分析法実習

2) 専門領域

- ① 「文化・システム」系 現代社会論, 比較社会論, ネットワーク・メディア論, 社会意識論, 現代文化論
- ② 「生活・福祉」系 生活の社会学, 家族の社会学, 仕事の社会学, 福祉の社会学, ケアの社会学, 民俗学
- ③ 「地域・エリアスタディーズ」系 地域社会学A (地域社会変動), 地域社会学B (環境・災害・コミュニティ), 地域社会学C (エスニシティと都市), エリア・スタディーズA (グローバル都市論), エリア・スタディーズB (地域・国家・アイデンティティ)

(2) 教育方法

① ゼミナール教育の重視

専修大学入門ゼミナール (1年次前期必修)

専門入門ゼミナール (1年次後期必修)

専門ゼミナールA (研究テーマ別の演習 3年次必修)

専門ゼミナールB (専門ゼミナールAと連続で履修し研究を深化させ, 卒業論文につなげる 4年次必修)

※ゼミナールに準じた科目, 文献研究Aおよび社会調査実習A (2・3年次選択必修) もある。

② 調査・実証教育の重視

実証研究の基礎であり社会学方法論の基礎ともなる「社会調査の基礎」「調査設計と実施方法」(1年次必修)の設置

2・3年次連続の「社会調査実習A, B」(Aは2・3年次選択必修, Bは3・4年次選択)の設置

分析方法としての「データ分析法実習」(1年次必修)と「統計学実習」(1年次選択), 「質的分析法」(2・3・4年次選択), 「多変量解析法実習」(2・3・4年次選択)の設置

※上記はすべて, 社会調査士資格取得の際の必修科目となる。

③ 特殊講義の設置

主要研究・学修領域, 専門的学修分野に関連した講義, 時代の変容に対応する個性ある講義科目の設置

④ 単位履修の柔軟性

他学科・他学部との単位の互換性を推進するため, 卒業に必要な学科の専門科目の最低履修単位数を少なくし(82単位), 学際的に学べるようにするとともに, 他方では社

会学科の専門科目を102単位以上履修できるように科目設置し、専門をより深く学ぶことも可能にしている。

⑤ 卒業論文の必修

本学社会学科で学修・研究したことの集大成としての論文執筆

以上の特徴あるカリキュラム編成のもとで、社会学科に所属する学生は、次に示す研究・学修領域と専門学修分野を履修できるようにしている。

〈研究・学修領域と専門学修分野〉

(1) 基礎部門

社会学の歴史や理論，社会学的研究の方法，社会調査の理論と技法などを学び，社会学の基礎知識・社会学的思考を身につける。

- ① 社会学原論 社会学の理論と社会学的思考法を学ぶ。
- ② 社会調査の基礎 社会学の方法論と社会調査の基礎を学ぶ。
- ③ 調査設計と実施方法 社会調査を実施するための技法を学ぶ。
- ④ データ分析法実習 データ分析の技法を学ぶ。

(2) 専門分野

1) 〈「文化・システム」系〉

経験的調査と社会理論，社会構造と社会意識を接続しながら，個人と社会の全体的解明を目指している。人びとの意識・文化とその背景にある社会構造との解明を目標に，調査，統計，文献を用いて実証的／理論的な社会学的方法によって現代社会を幅広く研究し，多角的視点から社会構造と行為の間の因果関係を分析的に理解し説明できる力を育成する。

- ① 現代社会論 現代社会の構造を規定している社会階層の動向をにらみながら，現代社会を全体的に論じてゆく専門分野。
- ② 比較社会論 社会システム，体制といったようなマクロな観点から社会構造と社会変動などを学んでいく専門分野。
- ③ ネットワーク・メディア論 激変するメディア環境を主な対象とし，メディア・コミュニケーションに関する理論と実証研究の成果を学ぶ専門分野。
- ④ 社会意識論 個人レベルでの社会的相互行為論を，全体社会レベルでの社会構造論に接続させてゆく理論を学ぶ専門分野。
- ⑤ 現代文化論 現代社会における変貌著しい文化のあり方を，社会構造や社会階層との関連で論じてゆく専門分野。国境を越えて広がるグローバルな文化論を学ぶ。

2) 〈「生活・福祉」系〉

生活の場としての「家庭と職場」，人の成長プロセスとしての「子どもから高齢者」を軸に，人間生活の基礎的単位とそのつながりや関係についての基本的な理解と実態的，事象的な把握を目指している。

- ① 生活の社会学 現代社会の現実を，生活構造やライフスタイルの側面から研究する

専門分野。

- ② 家族の社会学 家族をめぐる諸現象の分析を通して、変貌する家族と家族の将来を研究する専門分野。
- ③ 仕事の社会学 労働の「意味」、職業をめぐる集団、労使関係、そして働く者の生活や意識、産業を中心とする地域構造の変化などを学ぶ専門分野。
- ④ 福祉の社会学 社会福祉に関する諸問題と人々の生活、それに対応するサービスの歴史的展開と現状の分析をとおして、社会福祉のあり方を学ぶ専門分野。
- ⑤ ケアの社会学 現代社会における人々の生活問題、特に高齢者・その他の援助を必要とする人々の介護・ケアをめぐる諸問題とそれに対応する制度やサービスの政策的・実践的展開、現状の理解と分析をすることで、社会福祉の在り方を学ぶ専門分野。
- ⑥ 民俗学 民間伝承・知識を素材に「常民」の生活をたどり、日本社会の文化的・思想的根源と現代日本の生活・文化への「継続」を明らかにする専門分野。

3) 〈「地域・エリアスタディーズ」系〉

人びとの生活と、生活が営まれる地域に焦点を合わせた社会学の学習・研究を目標にする。現代の地域がグローバル化過程におかれている現状を認識し、グローバル化のなかでの地域、都市の構造と変容の実証的、経験的な理解を目指す。

- ① 地域社会学A 地域社会のしくみと住民の生活への働きを理解し、その変動を人びとの共同の実践として捉えることをとおして、現代社会の変容を明らかにする専門分野。
- ② 地域社会学B 地域開発や災害などを契機とする劇的な生活変容としての「生活環境」の問題に焦点をあわせ、現代社会の問題を研究する専門分野。
- ③ 地域社会学C 都市に生ずる諸問題、生成するネットワークやコミュニティ、そして人びとの生き方などを手がかりに、現代社会の性格を学ぶ専門分野。
- ④ エリア・スタディーズA グローバル都市の問題を切り込み口に、グローバル化にともなうマイグレーション・ネットワークの形成、移住のプロセス、地域社会の多様化と統合の問題を研究する専門分野。
- ⑤ エリア・スタディーズB グローバル化にともなって生じる民族関係の変容やナショナルリズムの展開、国民国家の変容とアイデンティティ変容の問題を研究する専門分野。

これらの学び方については、諸分野のうちからひとつの分野を選び、それを集中的に学んだりもあれば、また、特定分野を選びつつもその他の諸分野を横断するような課題を設定して研究・学修を進めるやり方もある。いずれにせよ、ひとつの専門分野、問題を深めようとするならば、おのずから他の専門分野、他の諸科学の広い学修も不可欠になっていく。それぞれが主体的な学習計画を立てることが望ましい。

なお、社会学科で「社会調査士」の資格を取得するための独自のカリキュラムも用意している(資格については、後述の「E. 社会学における資格取得について」を参照のこと)。

さらに深く社会学の諸領域に関する高度な研究・学修を望む人、あるいはより専門的な職業人を目指し教育を受けたいと望む人には、大学院で学ぶ道が開かれている。

B. 必修科目

社会学原論 1, 2 社会学の基本的なものの見方, 考え方を学ぶ。これから社会学を学んでいこうとする学生にとってのイントロダクションとなる科目である。

社会調査の基礎, 調査設計と実施方法 社会調査は, 社会の経験的・実証的研究を進めていくための必要不可欠な研究方法のひとつである。「社会調査の基礎」, 「調査設計と実施方法」では, 社会調査に関する基礎知識を修得し, 具体的な方法を理解すると同時に, 社会調査の根底に流れる社会学的思考法についても理解を深める。

ゼミナール テキストの講読・討論, あるいは各自のテーマ別学修の報告・討論などの形式により, 特定問題についての研究を, 原則として少人数で行うものである。

- ① **専門入門ゼミナール** 文献の読み方や発表の仕方などの具体的な学修方法を含めた大学での基本的な研究・学修スタイルを身に付けたり, 社会学への興味や関心を呼び起こし, 今後の研究・学修の助走をつけることを目指す, 新入学生のための科目である。
- ② **専門ゼミナールA** 1年次の「専門入門ゼミナール」や, 2年次の「社会調査実習A」, 「文献研究A」, 講義等で学んだことを基礎に, 学生個々人が最も関心を持つ社会学の領域・分野を決定し, それを専門的に研究していくためのゼミナールである。学生は, 各人の興味関心に沿って, 開講されているゼミナール群からひとつを選択する。なお, この科目は, 後述の卒業論文の作成のための研究を主とする「専門ゼミナールB」と連続するので, 各人のテーマに沿って慎重に選ぶこと。
- ③ **専門ゼミナールB** 「専門ゼミナールA」と連続している科目であり, 3年次で学修・研究したことを基礎に, 大学生活の集大成として, 担当教員の指導のもとで論文作法を学びつつ, 卒業論文を書くための文献講読や調査結果のとりまとめを行う。

卒業論文 社会学科に所属する学生は, 4年次で, 大学における学修・研究の総決算として「卒業論文」を執筆することが義務づけられている。なお, 卒業論文は, 所定の期日までに提出し, 論文に関する口述試験に合格しなくてはならない(卒業論文については p. 25 参照)。

必修科目のとり方として, 「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」はそれぞれ, 同一年次に同じ名称の科目を複数履修することはできない。さらに, 「専門ゼミナールB」の履修は「専門ゼミナールA」の単位を修得した上でないと認められないし, また, 「専門ゼミナールA」と「専門ゼミナールB」を同一年次に同時履修することも認められないので, 注意すること。

また, 卒業論文の提出は, 「専門ゼミナールB」の履修が要件になっている。(ただし, 特例として, 3年次で留学(協定校)の場合には, 4年次での「専門ゼミナールA」と「専門ゼミナールB」の同時履修と卒業論文の提出を認める。)

C. 選択必修科目

社会調査実習Aおよび文献研究A 2年次または3年次で, 「社会調査実習A」あるいは「文献研究A」のどちらか1科目を履修しなければならない。社会学の学修の基礎となるので2年次での履修が望まれる。いずれも少人数の演習ないし実習形式による授業であり, ゼミナールに準ずる重

要な科目である。

- ① 社会調査実習A 社会調査は、社会の経験的・実証的研究を進めていくための必要不可欠な研究方法のひとつであり、2・3年次に「社会調査実習A」が置かれている。さらに社会調査を継続して実践的に学修したいと考える学生には、「社会調査実習A」の単位修得を前提条件として、3年次以降に履修可能な「社会調査実習B」が、選択科目として用意されている。実習科目は、通年で行われる「授業」と主に夏期休暇中に行われる「実査」とがセットになっており、履修者は、必ずこの双方に出席しなければならない。なお、「実査」にかかる交通費・宿泊費の費用は自己負担となっている。
- ② 文献研究A 文献研究は、主として社会学の学修全般に必要な基礎概念や方法、テーマ等に関する基本的な知識、考え方を体得するために、特に社会学の古典として評価された文献の講読を行うものであり、2・3年次に「文献研究A」が置かれている。古典的な研究や理論的な研究をさらに深めたいと考える学生には、「文献研究A」の単位修得を前提条件として、3年次以降に履修可能な「文献研究B」が、選択科目として用意されている。

専門講義科目 2・3・4年次では、社会学をさらに専門的に学んでいく上に必要な基礎・関連領域の専門講義科目が32科目、選択必修科目として置かれている。社会学科の学生は、これらの科目群のうち、14科目28単位以上を必ず履修しなければならない。

専門分野の選択と履修に際しては、まず全ての専門科目の核となる「社会学原論1, 2」が修得されていること、次にそれぞれの専門科目に関連する「社会調査実習A」もしくは「文献研究A」（双方でもよい）を履修していることが望ましい。また、専門分野の科目には必ず「専門ゼミナールA・B」と「卒業論文」作成が連動することになる。

D. 選択科目

「社会調査実習B」, 「文献研究B」, 「社会学特殊講義A～F」, その他が選択科目として置かれている。

このうち、「社会調査実習B」と「文献研究B」は、2年次で履修した「社会調査実習A」, 「文献研究A」それぞれのテーマをさらに深化させ、3年次ゼミナールでの各人の関心を文献や調査研究という側面からサポートするために置かれている科目である。

「社会学特殊講義A～F」は、社会学の基礎としての選択必修科目群を補完する講義や、それに関連する他専門分野の講義および今日的なテーマを取り上げる講義から成っており、各人の興味や関心に沿って履修する。

なお、心理学科の一部の科目については、自由選択単位となる科目に繰り入れることができる。

前述のように社会学は、幅広い対象領域を含むものであるから、自らのテーマを明確にし、それを中心に関連する科目を自主的、計画的に選択することが望まれる。

E. 社会学における資格取得について

社会調査士資格の取得について

2004年度から社会調査協会によって、「社会調査士」の資格が認定されている。現在社会学科に設置してある「社会調査士資格関連科目（以下、「資格関連科目」とする）」を履修することによって、「社会調査士」資格を申請する条件を整えることができる。

① 社会調査とはなにか

社会調査は社会学では不可欠の現実認識の手段であるが、現在では社会学という学問分野を超えて官公庁、企業活動など社会と密接なかかわりをもつ領域においても注目されている方法である。国や地方自治体が行う「国勢調査」や「消費動向調査」、新聞社やテレビ局が行う「世論調査」や「政党支持率調査」、企業が行う「市場調査」や「需要予測調査」など、行政の政策・計画立案、企業活動の方針・計画決定などになくてはならないものになりつつある。

② 社会調査士とは

社会調査士とは、以上のような社会的要請に応えられる人材の能力に対して、社会調査協会（日本社会学会をはじめとする諸学会が設立した一般社団法人）が、その調査能力について、資格関連科目を履修したことをふまえて認定するものである。社会調査士にはさまざまな調査を企画、実施、集計・分析し、調査レポートの取りまとめやプレゼンテーションなど、社会調査実務担当者としての十分な能力が必要とされる。なお、資格関連科目とは、社会調査協会の定める標準カリキュラム科目（⑤を参照）に対応しているものであり、協会によって資格取得条件として認定された科目のことである。

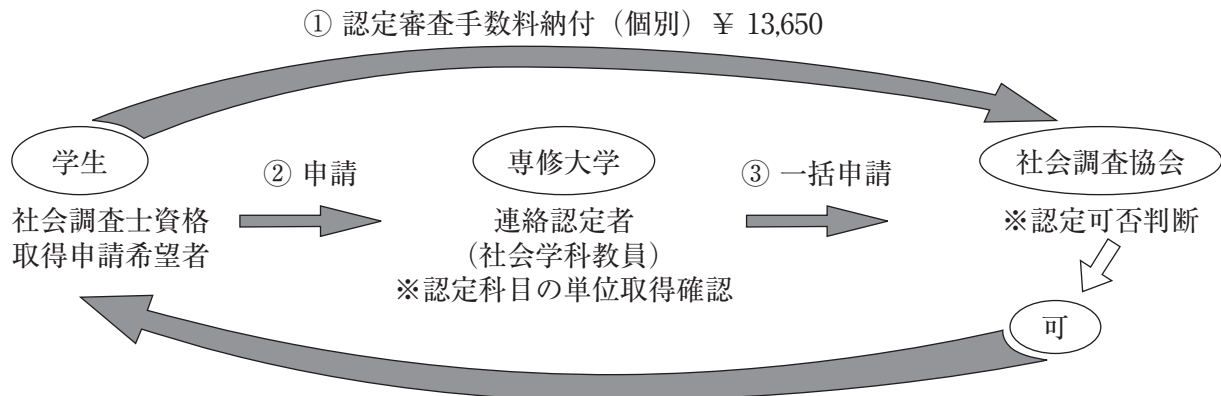
③ 社会調査士資格取得のメリットと注意点

社会調査士資格は、今後官公庁、企業などにおいて実務担当者の能力の一環を示すものとして認知されていく可能性が高い。しかし同時に、資格認定はその実力を示すものでなくてはならず、単に科目を履修すればよいというものでなく、はっきりとした目的意識をもって積極的に学んだものに与えられるべきものである。

したがって調査士の資格を取得しようとするものは相応の覚悟と努力で勉学に臨む必要がある。

④ 社会調査士資格の取得方法

社会調査士の資格は次のような手順で取得できることになっている。まず、資格取得希望者は、社会調査協会の定める標準カリキュラムに対応した学内の資格関連科目の単位を修得することが前提となる。次に社会調査協会に審査手数料を納付し（図の①）、所定の書類を添えて本学「連絡責任者」（社会学科教員が担当）に申請の依頼を行う（図の②）。「連絡責任者」が学生の申請をとりまとめて協会に申請を行う（図の③）。その際に、本学科内規にしたがい、優秀な成績を修め社会調査士としての十分な能力を備えていると判断される者のみを「連絡責任者」は申請する。単位を修得していても成績不良のため能力に満たないと判断される学生については、取りまとめ申請を行わない場合がありうる。認定の可否は、社会調査協会によって行われ、認可された者には学位取得後、資格変更手数料を納付することによって、認定証が交付される（図の④）。申請のための内規についてはガイダンスなどで詳しく説明する。



④ 社会調査士資格認定・交付
※卒業までは認定見込み。学位を取得し，資格変更手数料 ¥ 5,000 の支払後に認定証交付

図：社会調査士資格取得の流れ

- ⑤ 社会調査士資格関連科目（カッコ内A～Fが社会調査協会の定める標準カリキュラム科目の名称である。資格の申請にはA～DおよびGの5科目と，EとFのいずれかの1科目の計6科目の単位取得が必要である。）

「社会調査の基礎」（A. 「社会調査の基本事項に関する科目」）

「調査設計と実施方法」（B. 「調査設計と実施方法に関する科目」）

「データ分析法実習」（C. 「基本的な資料とデータ分析に関する科目」）

「統計学実習」（D. 「社会調査に必要な統計学に関する科目」）

「多変量解析法実習」（E. 「量的データ解析の方法に関する科目」）

「質的分析法」（F. 「質的なデータ分析の方法に関する科目」）

「社会調査実習A」（G. 「社会調査の実習を中心とする科目」）

- ⑥ 履修モデル

望ましい履修モデルを示せば，次の通りとなる。

1年次で 「社会調査の基礎」(A), 「調査設計と実施方法」(B), 「データ分析法実習」(C)
「統計学実習」(D)

2年次で 「多変量解析法実習」(E) もしくは「質的分析法」(F), 「社会調査実習A」(G)

社会調査士に関する詳しい情報は，社会調査協会のホームページ (<http://jasr.or.jp>) を参考にすること。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは、上記の卒業要件単位を修得した上で、さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは、以下の6つになる。

- a. 転換・導入教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した社会学科開講の専門科目の単位。
- d. 社会学科の学生に受講が認められている人間科学部他学科開講の専門科目の単位。
- e. 教職に関する科目ならびに司書・司書教諭課程科目の単位。ただし8単位まで。(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- f. 社会学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし22単位まで。

「自由選択修得要件単位となる科目」は、の科目区分にとらわれず、自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的なカリキュラムを組んでもらいたい。

なお、「卒業要件単位」(計124単位)は卒業に必要な最低限の学修であり、より裾野を広げた学習を主体的に組んでゆくことが期待される。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

「必修科目」の単位をなんらかの理由で指定年次に修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。「再履修」の必修科目は、すべてに優先して履修しなければならないことを銘記しておいてほしい。

なお、一度単位を修得した科目の「再履修」はできない。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

「選択必修科目」および「選択科目」の単位を修得できなかった場合は、翌年次以降に同一名称の科目を「再履修」してもよいが、必ずしも同一名称の科目を「再履修」せずに、選択科目群内の別の科目の単位を修得して「卒業要件」を充たすことも可能である。

社会学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考	
専修大学 入学 教育 基礎 課程 科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。	
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2		
	キャリア教育関連科目	キャリア入門					
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ 情報入門Ⅱ					
	基礎自然科学	あなたと自然科学				13 1年次で同一言語の101 a・bと102 a・bを履修しなければならない。 同一言語の初級科目をすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。	
	英語	A 群 Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1)	General English 1 (1)				2
		B 群 Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)	General English 1 (1)				2
	外国語 基礎 の 外国語	ドイツ語初級101 a (1) ドイツ語初級101 b (1) ドイツ語初級102 a (1) ドイツ語初級102 b (1) フランス語初級101 a (1) フランス語初級101 b (1) フランス語初級102 a (1) フランス語初級102 b (1) 中国語初級101 a (1) 中国語初級101 b (1) 中国語初級102 a (1) 中国語初級102 b (1) スペイン語初級101 a (1) スペイン語初級101 b (1) スペイン語初級102 a (1) スペイン語初級102 b (1) ロシア語初級101 a (1) ロシア語初級101 b (1) ロシア語初級102 a (1) ロシア語初級102 b (1) インドネシア語初級101 a (1) インドネシア語初級101 b (1) インドネシア語初級102 a (1) インドネシア語初級102 b (1) 韓国語初級101 a (1) 韓国語初級101 b (1) 韓国語初級102 a (1) 韓国語初級102 b (1)					4
		スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)				1
		人文科学基礎 関連科目	作品を創る1 作品を創る2 世界の文学を読む 越境する文学への招待 英語圏の視点・地域・文化 歴史と現代の文化 基礎心理学入門	応用心理学入門 哲学の歴史 日本の思想入門 倫理学とは何か 倫理学入門 論理学入門 芸術学入門	芸術の歴史1 芸術の歴史2 異文化理解の人類学 異文化の現場から 人類の暮らしと自然 人類学から見た近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代		
社会科学基礎 関連科目		日本憲法入門 社会学入門 政治学入門 経済学入門 地理学入門 自然環境の地理学	人文・社会環境の地理学 社会科学の方法 社会科学の歴史 社会科学思想の歴史 社会科学思想と現代 教育学の教育学	教育と社会のダイナミズム 情報社会と人間(環境と認知) 情報社会と人間(情報デザイン) はじめての経営 マーケティングベーシックス			
自然科学系科目		基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験 生物学101 生物学102 生物学201 生物学202	生物学301 生物学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302	物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302	数理学101 数理学102 数理学201 数理学202 数理学301 数理学302	科学史101 科学史102 科学史201 科学史202
融合領域科目		国際科目101 国際科目102 国際科目103 国際科目104	国際科目105 国際科目106 国際科目107 国際科目108	国際科目109 国際科目110 国際科目111(4) 国際科目112(4)	国際科目113(4) 国際科目114(4) 国際科目115(4)		
		テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208		
		新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305			
		教養テーマゼミナールⅠ(4)	教養テーマゼミナールⅡ(4)	教養テーマゼミナールⅢ(4)	教養テーマゼミナール論文		
教養 育 科 目 系 の 外 国 語		英語	English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。
	基礎 英語 以 外 の 外国語	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b		9 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目2単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。	
		ドイツ語中級201 a (1) ドイツ語中級201 b (1) ドイツ語中級202 a (1) ドイツ語中級202 b (1) フランス語中級201 a (1) フランス語中級201 b (1) フランス語中級202 a (1) フランス語中級202 b (1)	中国語中級201 a (1) 中国語中級201 b (1) 中国語中級202 a (1) 中国語中級202 b (1) スペイン語中級201 a (1) スペイン語中級201 b (1) スペイン語中級202 a (1) スペイン語中級202 b (1)	ロシア語中級201 a (1) ロシア語中級201 b (1) ロシア語中級202 a (1) ロシア語中級202 b (1) インドネシア語中級201 a (1) インドネシア語中級201 b (1) インドネシア語中級202 a (1) インドネシア語中級202 b (1)	韓国語中級201 a (1) 韓国語中級201 b (1) 韓国語中級202 a (1) 韓国語中級202 b (1)		
		ドイツ語中級プラス201 a ドイツ語中級プラス201 b ドイツ語中級プラス202 a ドイツ語中級プラス202 b フランス語中級プラス201 a フランス語中級プラス201 b	フランス語中級プラス202 a フランス語中級プラス202 b 中国語中級プラス201 a 中国語中級プラス201 b 中国語中級プラス202 a 中国語中級プラス202 b	スペイン語中級プラス201 a スペイン語中級プラス201 b スペイン語中級プラス202 a スペイン語中級プラス202 b ロシア語中級プラス201 a ロシア語中級プラス201 b	韓国語中級プラス202 a 韓国語中級プラス202 b		
				ドイツ語上級301 a ドイツ語上級301 b フランス語上級301 a フランス語上級301 b 中国語上級301 a 中国語上級301 b スペイン語上級301 a スペイン語上級301 b	ロシア語上級301 a ロシア語上級301 b インドネシア語上級301 a インドネシア語上級301 b 韓国語上級301 a 韓国語上級301 b	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目、同一年度に4単位、年度を越えてさらに4単位、合計8単位まで履修することができる。	
		選択ドイツ語101 a (1) 選択ドイツ語101 b (1) 選択フランス語101 a (1) 選択フランス語101 b (1) 選択中国語101 a (1) 選択中国語101 b (1)	選択スペイン語101 a (1) 選択スペイン語101 b (1) 選択ロシア語101 a (1) 選択ロシア語101 b (1) 選択アラビア語101 a (1) 選択アラビア語101 b (1)	選択イタリア語101 a (1) 選択イタリア語101 b (1)			修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一言語の初級101 a・b, 102 a・bをすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、同一言語の選択101 a・bを履修することはできない。
		世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(韓国語)	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。	
		言語文化研究(ヨーロッパ)1 言語文化研究(ヨーロッパ)2	言語文化研究(アジア)1 言語文化研究(アジア)2	言語文化研究(アメリカ)			
		海外語学研修	海外語学短期研修1(外国語) 海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定される。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。
	保健体育系科目	スポーツウェルネス	スポーツウェルネス(1)			1	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することはできない。
アドバンススポーツ		アドバンススポーツ					
スポーツ論	健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達		オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ			
自由選択修得要件単位					20		

社会学科（外国人留学生）転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（ ）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は2単位）。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考	
転換・導入教育基礎科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2		
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2		
	キャリア教育関連科目	キャリア入門					
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ 情報入門Ⅱ					
	基礎自然科学	あなたと自然科学					
	外国語	日本語	日本語文章理解1・2(1) 日本語音声理解1・2(1) 日本語口頭表現1・2(1) 日本語文章表現1・2(1)			8	各科目の「1」は前期開講、「2」は後期開講とし、「1」と「2」はセットで履修しなければならない。各科目の前期「1」を単位修得できない場合、後期「2」の履修は削除しなければならない。
		英語	A Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1) B Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)	General English 1 (1)			General English 1は、英語A・B群の単位を修得できなかった場合に履修する科目。
	基礎外国語	ドイツ語	ドイツ語初級101 a・b(1) ドイツ語初級102 a・b(1) フランス語初級101 a・b(1) フランス語初級102 a・b(1) 中国語初級101 a・b(1) 中国語初級102 a・b(1) スペイン語初級101 a・b(1) スペイン語初級102 a・b(1) ロシア語初級101 a・b(1) ロシア語初級102 a・b(1) インドネシア語初級101 a・b(1) インドネシア語初級102 a・b(1) 韓国語初級101 a・b(1) 韓国語初級102 a・b(1)				同一言語の101 a・bと102 a・bを履修しなければならない。 同一言語の初級科目をすべて（4科目4単位）履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。
		スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)			1	
	教養	留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2			4	
人文科学基礎関連科目		作品を創る1 作品を創る2 日本の文学を読む 越境する文学への招待 英語圏の視座・民衆文化 歴史と社会・文化 歴史と社会・文化 基礎心理学入門	応用心理学入門 哲学の歴史入門 日本思想は何か 倫理学とあゆみ 倫理学入門 心理学と芸術入門	芸術の歴史1 芸術の歴史2 異文化理解の人類学 異文化の現場から 人類の暮らしと自然 人類学から見た近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代		卒業要件単位4単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成（履修）することができる。	
社会科学基礎関連科目		日本国憲法 社会と政治 政治経済と社会 地理学への招待 自然環境の地理学	人文・社会環境の地理学 社会科学の概観 社会科学思想と現代 社会学入門 教育学の場	教育と社会のダイナミズム 情報社会と人間（環境と認知） 情報社会と人間（情報デザイン） はじめての経営 マーケティングベーシック			
自然科学系科目		基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験 生物学101 生物学102 生物学201 生物学202	生物学301 生物学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302	物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302	数理解科学101 数理解科学102 数理解科学201 数理解科学202 数理解科学301 数理解科学302	科学論・科学史101 科学論・科学史102 科学論・科学史201 科学論・科学史202
融合領域科目			学際科目101 学際科目102 学際科目103 学際科目104	学際科目105 学際科目106 学際科目107 学際科目108	学際科目109 学際科目110 学際科目111(4) 学際科目112(4)	学際科目113(4) 学際科目114(4) 学際科目115(4)	
			テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208	
			新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305		
			教養テーマゼミナールⅠ(4)	教養テーマゼミナールⅡ(4)	教養テーマゼミナールⅢ(4)	教養テーマゼミナール論文	
教養育科目		日本語	応用日本語理解1(1) 応用日本語理解2(1) 応用日本語表現1(1) 応用日本語表現2(1)				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一年度に各科目1科目、年度を超えて各科目3科目3単位まで履修できる。
		英語	English Speaking a(1) English Speaking b(1)	Computer Aided Instruction a(1) Computer Aided Instruction b(1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b(1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。
	英語	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b		English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。	
	基礎外国語	ドイツ語	ドイツ語中級201 a(1) ドイツ語中級201 b(1) ドイツ語中級202 a(1) ドイツ語中級202 b(1) フランス語中級201 a(1) フランス語中級201 b(1) フランス語中級202 a(1) フランス語中級202 b(1)	中国語中級201 a(1) 中国語中級201 b(1) 中国語中級202 a(1) 中国語中級202 b(1) スペイン語中級201 a(1) スペイン語中級201 b(1) スペイン語中級202 a(1) スペイン語中級202 b(1)	ロシア語中級201 a(1) ロシア語中級201 b(1) ロシア語中級202 a(1) ロシア語中級202 b(1) インドネシア語中級201 a(1) インドネシア語中級201 b(1) インドネシア語中級202 a(1) インドネシア語中級202 b(1)	韓国語中級201 a(1) 韓国語中級201 b(1) 韓国語中級202 a(1) 韓国語中級202 b(1)	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。
		基礎強化	ドイツ語中級プラス201 a ドイツ語中級プラス201 b ドイツ語中級プラス202 a ドイツ語中級プラス202 b フランス語中級プラス201 a フランス語中級プラス201 b	中国語中級プラス201 a 中国語中級プラス201 b 中国語中級プラス202 a 中国語中級プラス202 b	スペイン語中級プラス201 a スペイン語中級プラス201 b スペイン語中級プラス202 a スペイン語中級プラス202 b 韓国語中級プラス201 a 韓国語中級プラス201 b	韓国語中級プラス202 a 韓国語中級プラス202 b	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目4単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。
	応用外国語	ドイツ語	ドイツ語上級301 a ドイツ語上級301 b フランス語上級301 a フランス語上級301 b	中国語上級301 a 中国語上級301 b スペイン語上級301 a スペイン語上級301 b	ロシア語上級301 a ロシア語上級301 b インドネシア語上級301 a インドネシア語上級301 b	韓国語上級301 a 韓国語上級301 b	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目、同一年度に4単位、年度を越えてさらに4単位、合計8単位まで履修することができる。
		選択	選択ドイツ語101 a(1) 選択ドイツ語101 b(1) 選択フランス語101 a(1) 選択フランス語101 b(1) 選択中国語101 a(1) 選択中国語101 b(1)	選択スペイン語101 a(1) 選択スペイン語101 b(1) 選択韓国語101 a(1) 選択韓国語101 b(1)	選択イタリア語101 a(1) 選択イタリア語101 b(1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一言語の選択101 a・bをセットで履修する。 同一言語の初級101 a・b, 102 a・bをすべて（4科目4単位）履修あるいは修得した場合、同一言語の選択101 a・bを履修することはできない。
	世界の言語と文化(ドイツ語)	世界の言語と文化(中国語)	世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語)	世界の言語と文化(韓国語)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。
	言語文化研究(ヨーロッパ)1	言語文化研究(ヨーロッパ)2	言語文化研究(アジア)1	言語文化研究(アジア)2	言語文化研究(アメリカ)		
	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)					修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定される。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。
海外語学中期研修1(外国語)	海外語学中期研修2(外国語)	海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語)	海外語学中期研修5(外国語)	海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語)	海外語学中期研修8(外国語)
保健体育系科目	スポーツウェルネス	スポーツウェルネス(1)			1		
	アドバンストスポーツ	アドバンストスポーツ				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。	
	スポーツ論	健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達	オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ		アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することはできない。	

自由選択修得要件単位

20

人間科学部専門科目一覧

心理学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	心理学科	社会学科
心理学概論 A	2	1	○	△
心理学概論 B	2	1	○	△
心理学データ解析 1 A	1	1	○	△
心理学データ解析 1 B	1	1	○	△
心理学基礎実験 1	2	1	○	△
心理学基礎実験 2	4	2	○	△
心理学研究法 1	4	3	○	△
心理学研究法 2	4	4	○	△
心理学講読 1	4	3	○	△
心理学講読 2	4	4	◎	△
卒業論文	8	4	○	△
知覚心理学 A	2	2・3	◎	△
知覚心理学 B	2	2・3	◎	△
認知心理学 A	2	2・3	◎	△
認知心理学 B	2	2・3	◎	△
学習心理学 A	2	2・3	◎	△
学習心理学 B	2	2・3	◎	△
生理心理学 A	2	2・3	◎	△
生理心理学 B	2	2・3	◎	△
発達心理学 A	2	2・3	◎	△
発達心理学 B	2	2・3	◎	△
社会心理学 A	2	2・3	◎	△
社会心理学 B	2	2・3	◎	△
人格心理学 A	2	2・3	◎	△
人格心理学 B	2	2・3	◎	△
臨床心理学 A	2	2・3	◎	△
臨床心理学 B	2	2・3	◎	△
犯罪心理学 A	2	2・3	◎	△
犯罪心理学 B	2	2・3	◎	△
心理学コンピュータ実習 A	2	1・2	◎	△
心理学コンピュータ実習 B	2	1・2	◎	△
心理学データ解析 2 A	1	2・3	◎	△
心理学データ解析 2 B	1	2・3	◎	△

科目名	単位	配当年次	心理学科	社会学科
心理学の思想と歴史 A	2	3・4	◎	△
心理学の思想と歴史 B	2	3・4	◎	△
情報処理心理学実習 A	2	3・4	◎	△
情報処理心理学実習 B	2	3・4	◎	△
基礎心理学特殊講義 1	2	3・4	△	△
基礎心理学特殊講義 2	2	3・4	△	△
基礎心理学特殊講義 3	2	3・4	△	△
基礎心理学特殊講義 4	2	3・4	△	△
基礎心理学特殊講義 5	2	3・4	△	△
基礎心理学特殊講義 6	2	3・4	△	△
基礎心理学特殊講義 7	2	3・4	△	△
基礎心理学特殊講義 8	2	3・4	△	△
基礎心理学特殊講義 9	2	3・4	△	△
基礎心理学特殊講義 10	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 1	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 2	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 3	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 4	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 5	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 6	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 7	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 8	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 9	2	3・4	△	△
心理学特殊講義 10	2	3・4	△	△
精神病理学 A	2	3・4	△	△
精神病理学 B	2	3・4	△	△
臨床心理学実習 A	1	4	△	△
臨床心理学実習 B	1	4	△	△

社会学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	社会学科	心理学科
社会学原論 1	2	1	○	△
社会学原論 2	2	1	○	△
社会調査の基礎	2	1	○	△
調査設計と実施方法	2	1	○	△
統計学実習	2	1	△	△
多変量解析法実習	2	2・3・4	△	△
データ分析法実習	2	1	○	△
質的解析法	2	2・3・4	△	△
社会調査実習 A	4	2・3	◎	△
社会調査実習 B	4	3・4	△	△
文献研究 A	4	2・3	◎	△
文献研究 B	4	3・4	△	△
現代社会論 1	2	2・3・4	◎	△
現代社会論 2	2	2・3・4	◎	△
比較社会論 1	2	2・3・4	◎	△
比較社会論 2	2	2・3・4	◎	△
ネットワーク・メディア論 1	2	2・3・4	◎	△
ネットワーク・メディア論 2	2	2・3・4	◎	△
社会意識論 1	2	2・3・4	◎	△
社会意識論 2	2	2・3・4	◎	△
現代文化論 1	2	2・3・4	◎	△
現代文化論 2	2	2・3・4	◎	△
生活の社会学 1	2	2・3・4	◎	△
生活の社会学 2	2	2・3・4	◎	△
家族の社会学 1	2	2・3・4	◎	△
家族の社会学 2	2	2・3・4	◎	△
仕事の社会学 1	2	2・3・4	◎	△
仕事の社会学 2	2	2・3・4	◎	△
福祉の社会学 1	2	2・3・4	◎	△
福祉の社会学 2	2	2・3・4	◎	△
ケアの社会学 1	2	2・3・4	◎	△
ケアの社会学 2	2	2・3・4	◎	△
民俗学 1	2	2・3・4	◎	△
民俗学 2	2	2・3・4	◎	△
地域社会学 A-1	2	2・3・4	◎	△
地域社会学 A-2	2	2・3・4	◎	△
地域社会学 B-1	2	2・3・4	◎	△
地域社会学 B-2	2	2・3・4	◎	△
地域社会学 C-1	2	2・3・4	◎	△
地域社会学 C-2	2	2・3・4	◎	△
エリア・スタディーズ A-1	2	2・3・4	◎	△
エリア・スタディーズ A-2	2	2・3・4	◎	△
エリア・スタディーズ B-1	2	2・3・4	◎	△
エリア・スタディーズ B-2	2	2・3・4	◎	△
ポップカルチャー論	2	2・3・4	△	△
宗教学 1	2	2・3・4	△	△
宗教学 2	2	2・3・4	△	△
神話学	2	2・3・4	△	△

科目名	単位	配当年次	社会学科	心理学科
心の哲学	2	2・3・4	△	△
社会哲学	2	2・3・4	△	△
経済学概論 1	2	2・3	△	△
経済学概論 2	2	2・3	△	△
現代経済論 1	2	2・3	△	△
現代経済論 2	2	2・3	△	△
社会政策論 1	2	2・3・4	△	△
社会政策論 2	2	2・3・4	△	△
社会運動論 1	2	2・3・4	△	△
社会運動論 2	2	2・3・4	△	△
社会保障論 1	2	2・3・4	△	△
社会保障論 2	2	2・3・4	△	△
日本経済史 1	2	3・4	△	△
日本経済史 2	2	3・4	△	△
ジェンダー史 1	2	2・3・4	△	△
ジェンダー史 2	2	2・3・4	△	△
自然地理学概論 1	2	1・2	△	△
自然地理学概論 2	2	1・2	△	△
地方自治論	2	2・3・4	△	△
国際協力論	2	2・3・4	△	△
多文化共生国際社会論	2	2・3・4	△	△
地球環境問題	2	2・3・4	△	△
社会学思想史	2	3・4	△	△
日本社会史	2	3・4	△	△
地域研究概論	2	3・4	△	△
日本史概説 1	2	1・2	△	△
日本史概説 2	2	1・2	△	△
アジア史概説 1	2	1・2	△	△
アジア史概説 2	2	1・2	△	△
欧米史概説 1	2	1・2	△	△
欧米史概説 2	2	1・2	△	△
言論法 1	2	2・3・4	△	△
言論法 2	2	2・3・4	△	△
憲法 1	2	2・3	△	△
憲法 2	2	2・3	△	△
社会学特殊講義 A	2	2・3・4	△	△
社会学特殊講義 B	2	2・3・4	△	△
社会学特殊講義 C	2	2・3・4	△	△
社会学特殊講義 D	2	2・3・4	△	△
社会学特殊講義 E	2	2・3・4	△	△
社会学特殊講義 F	2	2・3・4	△	△
専門ゼミナール A	4	3	○	△
専門ゼミナール B	4	4	○	△
卒業論文	8	4	○	△

専門科目一覧

第4章

教職, 司書, 司書教諭, 学芸員課程について

- I 教 職 課 程
- II 司書・司書教諭課程
- III 学 芸 員 課 程
- IV 大学院教職課程
- V 科目等履修生

I 教 職 課 程

1. 教職課程とは

本学では、中学校および高等学校の教育職員免許状を取得させることを目的として教職課程を設置している。

現在の法律では、原則として教育職員免許状を取得していないものは教職につくことが出来ない。将来教職につく意思のあるものは、教職課程を履修し教育職員免許状を取得しなければならない。

本学で教育職員免許状を取得するためには原則として3年間以上教職課程の授業を履修し、学部の卒業単位の他に教職に関する科目と教科に関する科目の単位を修得しなければならない。なお、教職課程の履修者は受講料として履修初年度に25,000円を納入しなければならない。

2. 免許状の種類と取得所要資格

教育職員免許法（以下「免許法」という）に定められた教職ならびに教科に関する科目の単位を修得すれば、人間科学部にあっては、次の教育職員免許状（以下「免許状」という）が取得できる。

※中学校の免許状を取得する場合、7日間の介護等の体験が義務付けられている。詳細については4月に行われる教職課程ガイダンス時に説明を受けること。

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
人 間 科 学 部	心 理 学 科	社会	公民
	社 会 学 科	社会	地理歴史・公民

免許法の定めるところにより、上記免許状は、次表に定める基礎資格を有し、かつ大学において次表の所定単位を修得した者に授与される。

所要資格 免許状の種類	基礎資格	教育職員免許法及び免許法施行規則に定める最低修得単位数						
		免許法施行規則 第66条の6に定める科目				専 門 科 目		
		日 本 国 憲 法	体 育	外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	情 報 機 器 の 操 作	教職に 関する 科目	教科に 関する 科目	教科又は 教職に 関する 科目
中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位を 有すること	2	2	2	2	31	20	8
高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位を 有すること	2	2	2	2	23	20	16

学科により修得科目，修得単位数が異なる。詳しくは「教職・司書・司書教諭・学芸員課程学修ガイドブック」を参照すること。

※ 改正教育職員免許法（平成19年改正法，以下「新免許法」）の施行に伴う教員免許更新制（免許状更新講習）の実施について

平成21年4月の新免許法の施行に伴い，免許状には最長10年間の有効期限が設けられ，免許状を失効させないためには免許状取得要件を満たしてから10年毎に免許状更新講習を受講して，免許状の更新を行うことが義務付けられました。更新講習を受講しなかったり，講習終了時の試験に合格しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は，免許状が失効することになります。

また，免許状更新講習の受講資格は現職教員の他，教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。

3. 教職課程の履修について

教職課程の履修方法等詳細については，4月に行われる教職課程ガイダンスに出席し説明を受けること。また，履修初年度のガイダンス時に『教職・司書・司書教諭・学芸員課程学修ガイドブック』を配付する。

II 司書・司書教諭課程

1. 司書・司書教諭課程とは

司書課程とは，公共図書館，大学図書館，研究機関や企業の資料室などで，資料（図書，雑誌，CD，DVD，官庁出版物，その他）を収集・整理し，これら資料を利用者に対し適切に提供する専門職（司書）を養成することを目的としている。

司書教諭課程とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門職員（司書教諭）を養成することを目的としている。したがって、司書教諭課程を履修するときは、教職課程も履修し、教育職員免許状を取得しなければならない。

いずれの資格も現在有資格者はあふれている。したがって、単に資格の数をふやすための安易な履修は何の役にも立たない。各図書館から要求される人材は「実力のある人」「専門知識に強い人」であって、単なる有資格者はむしろ敬遠されるといっても過言ではない。

この課程を履修するものは、旺盛な知識欲と広い読書、それに専門分野についての十分な研鑽とが必要である。なお最近、各図書館の充実・拡充に伴って実力のある有資格者への要求が高まっていることを付言しておく。

本学で司書の資格を取得するためには原則として3年間以上司書課程の授業を履修し、学部の卒業単位の他に15科目30単位以上、司書教諭については5科目10単位以上を修得しなければならない。なお、司書課程の履修者は25,000円、司書教諭課程の履修者は10,000円を受講料として履修初年度に納入しなければならない。

2. 資格取得証明書について

司書課程を履修し、本学所定の単位を修得した者は、本学発行の「司書資格取得証明書」が資格証明書となる。

司書教諭については、本学所定の単位を修得し、さらに教育職員免許状を取得した者に対して申請により文部科学省から「学校図書館司書教諭講習修了証書」が授与される。

3. 司書・司書教諭課程の履修について

司書・司書教諭課程の履修方法等詳細については、4月に行われる司書・司書教諭課程ガイダンスに出席し説明を受けること。また、履修初年度のガイダンス時に『教職・司書・司書教諭・学芸員課程学修ガイドブック』を配付する。

Ⅲ 学芸員課程

1. 学芸員課程とは

学芸員とは、博物館・美術館・歴史資料館・考古資料館・民俗資料館・民芸館・文学館・文書館・動植物園・水族館・科学館等に勤務し、その事業の目的を達成するために、資料の収集、保管、展示および調査研究、その他、これと関連する事業についての専門的事項を司る専門職員である。本課程では、その養成を目的としている。

学芸員の資格は、博物館法第5条で「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定

める博物館に関する科目の単位を修得したもの」と規定されている。

学芸員課程を履修し、本学所定の単位を修得した者は、本学発行の「学芸員資格取得証明書」が資格証明書となる。

本学の学芸員課程は人文系の歴史・考古・民俗・美術史を専門とする学芸員を養成することを特色とするが、同時に社会教育に対するよき理解と学習意欲をもつ市民の養成も一つの目的である。

本学で学芸員の資格を取得するためには原則として2年間以上学芸員課程の授業を履修し、13科目27単位以上の単位を修得しなければならない。なお、学芸員課程の履修者は受講料として履修初年度に15,000円を納入しなければならない。

2. 学芸員課程の履修について

学芸員課程の履修方法等詳細については、4月に行われる学芸員課程ガイダンスに出席し説明を受けること。また、履修初年度のガイダンス時に『教職・司書・司書教諭・学芸員課程学修ガイドブック』を配付する。

IV 大学院教職課程

大学院教職課程について

大学において教育職員免許法に定める所定単位を修得し、中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の授与を受けた者が、大学院修士課程で本学所定の単位を修得し修了した場合、中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状を取得することができる。

V 科目等履修生

科目等履修生について

在学中の単位不足等により本学卒業後、教職・司書・司書教諭・学芸員課程の履修を希望する者は、科目等履修生として必要な単位を修得できる制度がある。ただし、科目等履修生となるためには、前年度の2月下旬～3月上旬に出願し、面接選考の上、合格した場合許可される。詳細については二部事務課窓口（神田校舎）で確認すること。

付 録

- I 専修大学定期試験規程
- II 定期試験における不正行為者処分規程

I 専修大学定期試験規程

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第17条の規定に基づき実施する試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第1条の2 この規程において「試験」とは、学事暦により期間を定めて実施する定期試験をいう。

(種類)

第2条 試験の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 前期試験 前期で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (2) 後期試験 後期で終了する授業科目及び通年で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (3) 前期追試験 第1号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。
- (4) 後期追試験 第2号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。

(時期)

第3条 試験の実施の時期は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、実施の時期を変更することがある。

- (1) 前期試験 7月～8月
- (2) 後期試験 1月～2月
- (3) 前期追試験 8月
- (4) 後期追試験 2月～3月

(試験方法)

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によるものとする。ただし、レポートをもってこれに替えることができる。

(試験時間)

第5条 試験時間は、原則として60分とする。

(試験監督)

第6条 試験監督は、当該授業科目担当教員が行う。ただし、必要に応じて補助者を加えることがある。

2 試験監督者は、試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

(試験委員)

第7条 試験の実施に際し、試験委員を置く。

- 2 試験委員は、試験の実施を統轄する義務と権限を有する。
- 3 試験委員は、教授会の承認を得て、学長が委嘱する。
- 4 試験委員は、試験の実施結果を学長に報告しなければならない。

(受験資格の取得)

第8条 受験資格は、次の各号の所定の手続を完了することにより取得する。

- (1) 履修科目登録の手続
 - (2) 学費の納入手続
 - (3) その他所定の手続
- 2 前項の規定にかかわらず、試験時において休学又は停学中の者は、受験資格を有しない。

(受験資格の喪失)

第9条 次の各号の一に該当する者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、第4号については、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

- (1) 学生証を携帯していない者
 - (2) 試験開始後20分を超えて、遅刻した者
 - (3) 試験監督者の指示に従わない者
 - (4) 試験において不正行為を行った者
- 2 前項第1号に該当する者に対して、当日のみ有効とする臨時学生証による受験を認める。
- 3 臨時学生証の交付を受けようとする者は、当該試験開始時刻までに、一部の試験については教務課窓口、二部の試験については二部事務課窓口申し出なければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、同項の規定による申出をしなかった場合であっても、その者が試験教室において、当該試験開始時刻までに試験監督者に対し、学生証不携帯の旨を申し出たときは、臨時学生証の交付を認めることができる。
- 5 前2項の規定による臨時学生証の交付に当たっては、所定の交付手数料を徴収するものとする。

(受験手続)

第10条 第2条第1号及び第2号による受験者は、試験前に公示する「定期試験実施要領」により、所定の手続を完了しなければならない。

- 2 第2条第3号及び第4号による受験者は、所定の期日までに追試験受験願及び次の各号に定める試験欠席理由を証明する書類を提出し、受験許可を得なければならない。
- | | |
|---------------------|---------------|
| (1) 教育実習 | 教育実習参加を証明するもの |
| (2) 就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |
| (3) 業務命令による出張又は超過勤務 | 所属長による証明書 |
| (4) 公式試合 | 公式試合参加を証明するもの |
| (5) 天災その他の災害 | 被災を証明するもの |

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| (6) 二親等以内の危篤又は死亡 | 危篤又は死亡を証明するもの |
| (7) 本人の病気又は怪我 | 医師の診断書 |
| (8) 交通機関の事故 | 遅延又は事故を証明するもの |
| (9) その他当該学部長がやむを得ない理由と認められた事項 | 学部長の承認を得た本人記載の理由書 |
- (成績評価)

第11条 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

2 前項の場合において成績評価の区分は、90点以上をS、85点以上90点未満をA+、80点以上85点未満をA、75点以上80点未満をB+、70点以上75点未満をB、65点以上70点未満をC+、60点以上65点未満をC、60点未満をFとする。

3 前項の成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、グレード・ポイント・アベレージ(GPA)を算出する。この場合において、グレード・ポイントは、Sを4.0、A+を3.5、Aを3.0、B+を2.5、Bを2.0、C+を1.5、Cを1.0、Fを0.0とする。

(成績発表)

第12条 試験の成績結果は、9月及び3月に本人に通知する。

(受験者の義務)

第13条 受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

- (1) 試験場においては、試験監督者の指示に従うこと。
- (2) 試験開始後20分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得ること。
- (3) 学生証を机上に提出すること。
- (4) 解答にさきだって、学籍番号及び氏名を記入すること。
- (5) 学籍番号及び氏名の記入は、ペン又はボールペンを使用すること。
- (6) 試験開始後30分以内は、退場しないこと。
- (7) 配付された答案用紙は、必ず提出すること。
- (8) 試験場においては、物品の貸借をしないこと。

(無効答案)

第14条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 第8条に定める受験資格を有していない者の答案
- (2) 第9条に該当する者の答案
- (3) 学籍番号及び氏名が記入されていない答案
- (4) 不正行為に該当する者の答案
- (5) 授業科目の担当者、曜日又は時限を間違えて受験した者の答案

(不正行為)

第15条 試験における不正行為とは、次の各号の一に該当する場合をいう。

- (1) 代人が受験したとき。(依頼した者・受験した者)

- (2) 答案を交換したとき。
- (3) カンニングペーパーを廻したとき。
- (4) カンニングペーパーを使用したとき。
- (5) 所持品（電子機器を含む。）その他へ事前に書込みをして、それを使用したとき。
- (6) 他人の答案を写したとき。（見た者・見せた者）
- (7) 言語・動作・電子機器等で連絡したとき。（連絡した者・連絡を受けた者）
- (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品を使用したとき。
- (9) 他人の学生証で受験したとき。（貸した者・借りた者）
- (10) 偽名答案を提出したとき又は氏名を抹消して提出したとき。
- (11) 故意による答案無記名のとき。
- (12) 答案を提出しなかったとき。
- (13) 使用が許可された参考書等で貸借をしたとき。
- (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めたとき。

（不正行為の確認）

第16条 試験監督者は、不正行為を発見した場合、その受験者の受験を直ちに中止させ、本人を同行して試験委員に報告するものとする。

2 試験委員は、学生部委員の立ち合いのもとに、不正行為の事実確認を行う。

3 試験委員は、不正行為が確認された場合、本人に始末書を提出させ、速やかに当該学部長に報告しなければならない。

（不正行為者の処分）

第17条 不正行為者の処分は、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

（規程の改廃）

第18条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

Ⅱ 定期試験における不正行為者処分規程

第1条 この規程は、専修大学定期試験規程第17条の規定に基づき、定期試験（以下「試験」という。）における不正行為者の処分に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 不正行為者の処分は、学部長が行う。

第3条 不正行為者の処分は、次の基準による。

- | | |
|---|--|
| (1) 代人受験（依頼した者・受験した者） | 2ヶ月の停学処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (2) 答案交換 | 第1号に同じ |
| (3) カンニングペーパー廻し | けん責処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (4) カンニングペーパーの使用 | 第3号に同じ |
| (5) 当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等） | 第3号に同じ |
| (6) 答案を写す（見た者・見せた者） | 第3号に同じ |
| (7) 言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者） | 第3号に同じ |
| (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用 | 第3号に同じ |
| (9) 他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者） | 第3号に同じ |
| (10) 偽名又は氏名抹消 | 第3号に同じ |
| (11) 故意による無記名 | 第3号に同じ |
| (12) 答案不提出 | 第3号に同じ |
| (13) 使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者） | けん責処分とし、当該受験科目を無効とする。 |
| (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めた場合 | 第1号から第13号に準じて処分する。 |

2 学部長は、前項の処分について速やかに学長及び教授会に報告しなければならない。

第4条 前条により処分を受けた者が、再度不正行為をした場合は、前条の規定にかかわらず教授会の議を経て2カ月以上1年以下の停学とし、当該不正行為が行われた学期における定期試験実施科目を無効とする。

第5条 試験終了後に不正行為が発覚した場合においても、第3条及び第4条により処分する。

第6条 処分の起算日は、処分決定日とする。

第7条 不正行為者の氏名及び処分は、速やかに掲示し、本人及び保証人に通知する。

第8条 処分事項は、学籍簿に記載するものとする。

第9条 不正行為者が本学奨学生制度による奨学生であるときは、直ちにその資格を失う。

第10条 停学処分中の者は、当該学部長の指導に従わなければならない。

第11条 不正行為者処分に関する事務取扱いは、教務課又は二部事務課が行う。

第12条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2017 人間科学部学修ガイドブック

平成29年4月1日

編集・発行 専修大学人間科学部

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

TEL 044-911-7191 (ダイヤルイン)

